

V. 資料 1 : アンケート調査結果

・アンケート調査結果の詳細データを掲載します。内容は次のとおりです。

1. 調査の概要

(1) 目的	2 3
(2) 調査対象	2 3
(3) 調査方法	2 3
(4) 回収結果	2 3

2. 調査結果

(1) 「国際理解教育」・「開発教育」の認知度やイメージについて	2 4
・ 国際理解教育の認知度	2 4
・ 国際理解教育の範ちゅう・イメージ	2 5
・ 開発教育の認知度	2 6
・ 開発教育の範ちゅう・イメージ	2 7
(2) 総合学習における「国際理解」への取り組みについて	2 8
・ 総合学習で取り組まれている分野	2 8
・ 総合学習における「国際理解」で扱っているテーマ	3 0
・ 総合学習において「国際理解」で扱わない理由	3 1
・ 将来扱いたい「国際理解」のテーマ	3 3
(3) 総合学習のねらいと課題について	3 4
・ 基礎学力と総合学習のねらいとする力、どちらが大切か	3 4
・ 総合学習のねらいに見合った実践度	3 5
・ 総合学習のねらいの未達成要因	3 6
・ 総合学習の評価・改善の実行度	3 7
(4) 「人類共通の課題を扱う教育」の取り組みについて	3 8
・ 学校における過去 3 年間の「人類共通の課題」を授業で取り組んだ実績	3 8
・ 人類共通の課題を取り上げた教科等	3 9

(裏につづく)

・人類共通の課題ごとの学習方法	4 3
・担当教員個人の「人類共通の課題」を授業で取り組んだ実績と今後の希望	4 5
・「人類共通の課題」の授業計画立案に参考にしたもの	4 7
・「人類共通の課題」の授業を進めるうえでの課題	4 8
・授業で「人類共通の課題」に取り組まなかった理由	4 9
・授業以外での「人類共通の課題」に関する過去3年間の取組	5 1
(5) 外部サポートの利用実態・ニーズについて	5 2
・外部サポートの過去3年間の利用実績	5 2
・サポート種ごとの利用先	5 3
・望まれる講師像	5 5
・具体的にあるとよい情報	5 6
(6) 研修・ネットワークへの参加実態・ニーズについて	5 7
・「人類共通の課題を扱う教育」に関する研修の有無と受講実績	5 7
・「人類共通の課題を扱う教育」に関するネットワークへの参加意向	5 9
(7) 学校・あなたの属性について	6 0
・回答学校・回答教員の属性	6 0

3. 自由記入意見

・学校において「人類共通の課題を扱う教育」に取り組んだことによる成果	6 2
・サポート種ごとの具体的な利用先名	7 9
・サポートする側に希望すること、留意してほしいこと	9 3
・印象の強い研修の名称と主催団体	1 0 1
・研修を企画する側へ希望すること、留意してほしいこと	1 0 4
・参加している具体的なネットワーク	1 0 8
・その他全般にわたっての意見	1 0 9

1. 調査の概要

(1) 目的

この調査は、愛知県における「人類共通の課題を扱う教育（国際理解教育・開発教育）」についての取組実態や意向、教員の外部リソースや研修に対するニーズなどを把握し、今後の国際理解教育・開発教育を推進するための提言に役立てることを目的としました。

(2) 調査対象

調査対象は、愛知県内のすべての小・中・高等・盲・聾・養護学校で、『平成15年度学校一覧（平成15年5月1日現在、愛知県教育委員会）』によりました。

学校においては、以下に該当する教員の中から代表する人（複数いる場合は合議して回答でも可）に、答えてもらうよう依頼しました。

- ・「総合的な学習の時間」で「国際理解」をテーマに扱ったことのある教員
- ・「総合的な学習の時間」の全校的な担当教員
- ・ 人権、環境、平和、国際理解
- ・ など人類共通の課題をテーマにした授業や活動を行っている教員

また、設問に応じて、教員個人の考えや実態を聞く設問（設問に「担当教員」と記す）と、学校全体の実態を聞く設問（「学校全体」と記す）とに分けて、答えてもらいました。

なお、JICA中部に関係した教員にも調査票を送りました（名古屋市を除く）が、諸事情により回収が十分にできなかったため、本報告書には自由記入による回答のみを反映しました。

(3) 調査方法

発送、回収ともに、郵送によりました。

調査期間は次のとおりです。

・名古屋市を除く学校	・名古屋市
発 送：11月14日	発 送：12月 3日
回収〆切：11月30日	回収〆切：12月19日
最終〆切：12月15日	最終〆切： 1月 6日

(4) 回収結果

回収結果は次のとおりです

- ・ 発送数 1,675 通
- ・ 回収数 755 通
- ・ 回収率 45.1 %

2. 調査結果

調査結果を、設問に沿って示しました。なお、自由記入による回答分は、3の項に示しました。

(1) 「国際理解教育」・「開発教育」の認知度やイメージについて

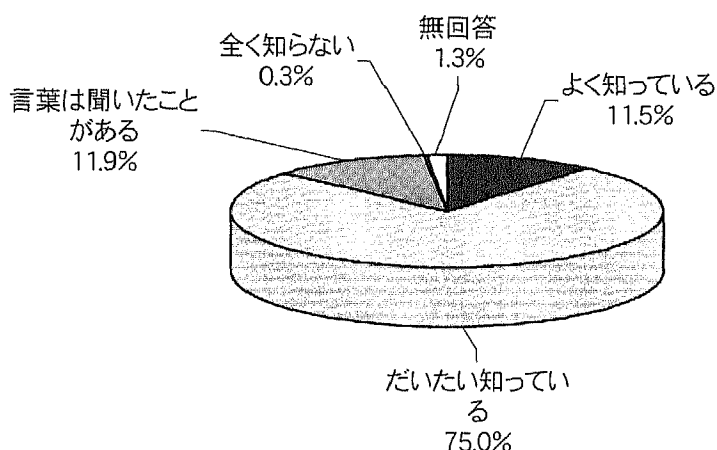
● 国際理解教育の認知度

問1. あなたは「国際理解教育」について、どの程度ご存知ですか？ [〇は1つ] 担当教員

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 よく知っている | 2 だいたい知っている |
| 3 言葉は聞いたことがある | 4 全く知らない |

国際理解教育の認知度は、「よく知っている」11.5%、「だいたい知っている」75.0%をあわせると、9割近くとかなり高くなっています。

学校区分別にみると、高等学校、盲・聾・養護学校では、小・中学校よりやや認知度が低くなっています。



01国際理解教育の認知度T

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	よく知っ ている	だいたい 知ってい る	言葉は聞 いたこと がある	全く知ら ない	無回答
合計	755 100.0	87 11.5	566 75.0	90 11.9	2 0.3	10 1.3
小学校	458 100.0	65 14.2	360 78.6	28 6.1	0 0.0	5 1.1
中学校	183 100.0	16 8.7	143 78.3	20 10.9	1 0.5	3 1.6
高等学校	86 100.0	4 4.7	49 56.9	30 34.9	1 1.2	2 2.3
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	1 5.3	9 47.3	9 47.4	0 0.0	0 0.0

● 国際理解教育の範ちゅう・イメージ

問2. 「国際理解教育」の教育の範ちゅうとして、あなたが該当すると思われるものは次のどれですか？
内容を知らない方はイメージされるものをお答えください。〔〇は該当するもの全て〕 担当教員

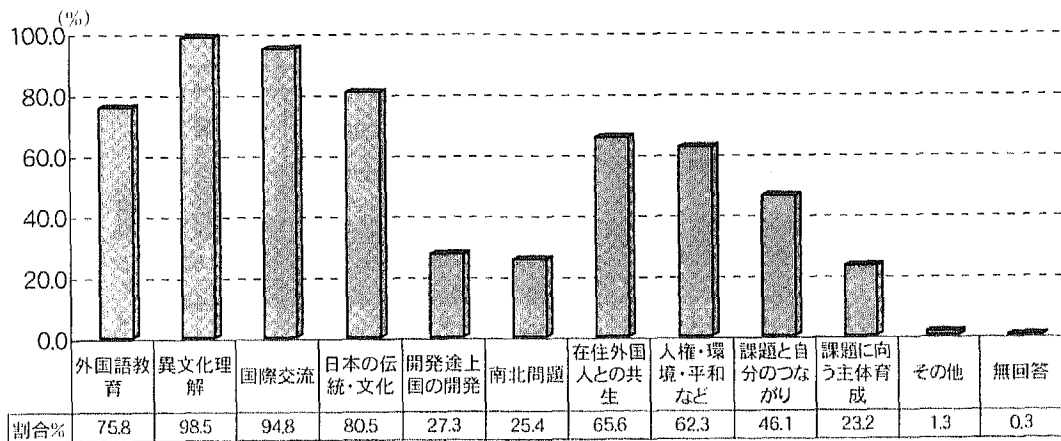
- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 外国語教育 | 2 異文化理解 |
| 3 国際交流 | 4 日本の伝統・文化 |
| 5 開発途上国の開発 | 6 南北問題 |
| 7 在住外国人との共生 | 8 人権・環境・平和など地球規模で考えるべき課題 |
| 9 地球規模の課題と自分とのつながり | 10 様々な課題の解決に向かおうとする主体の育成 |
| 11 その他 (<small>自由記述</small>) | |

国際理解教育の範ちゅう・イメージとしては、「異文化理解」が98.5%と最も多く、次いで「国際交流」94.8%、「日本の伝統・文化」80.5%、「外国語教育」75.8%となっています。これらはいわゆる国際化への対応に軸足を置いた範ちゅうといえます。

その一方で、「在住外国人との共生」65.6%、「人権・環境・平和など」62.3%、「地球規模の課題と自分とのつながり」46.1%というように、人類共通の課題を扱う教育としての認知も比較的高くなっています。

この傾向は、学校区分別には大きく変わりません。

また、年代別にみると、「29歳以下」で、「人権・環境・平和など」、「地球規模の課題と自分とのつながり」など人類共通の課題を扱う教育としての認知が他の世代と比べて低くなる傾向が見られます。



02国際理解教育のイメージT

上段：回答数 下段：割合%	全体	外国語教育	異文化理解	国際交流	日本の伝統・文化	開発途上国の開発	南北問題	在住外国人との共生	人権・環境・平和など地球規模課題	地球規模の課題と自分とのつながり	様々な課題解決に向かう主体の育成	その他	無回答
合計	755 100.0	572 75.8	744 98.5	716 94.8	608 80.5	206 27.3	192 25.4	495 65.6	470 62.3	348 46.1	175 23.2	10 1.3	2 0.3
小学校	458 100.0	378 82.5	454 99.1	442 96.5	397 86.7	119 26.0	98 21.4	309 67.5	274 59.8	211 46.1	106 23.1	7 1.5	0 0.0
中学校	183 100.0	127 69.4	183 100.0	173 94.5	137 74.9	63 34.4	59 32.2	124 67.8	127 69.4	91 49.7	46 25.1	3 1.6	0 0.0
高等学校	86 100.0	50 58.1	82 95.3	78 90.7	54 62.8	20 23.3	32 37.2	50 58.1	59 68.6	39 45.3	20 23.3	0 0.0	2 2.3
盲・聾・養護学校	19 100.0	12 63.2	16 84.2	18 94.7	12 63.2	1 5.3	1 5.3	6 31.6	7 36.8	5 26.3	2 10.5	0 0.0	0 0.0

02国際理解教育の範ちゅう・イメージ（年代別）

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	外国語教育	異文化理解	国際交流	日本の伝統・文化	開発途上国の開発	南北問題	在住外国人との共生	人権・環境・平和など地球規模課題	地球規模の課題と自分とのつながり	様々な課題解決に向う主体の育成	その他	無回答
合計	755 100.0	572 75.8	744 98.5	716 94.8	608 80.5	206 27.3	192 25.4	495 65.6	470 62.3	348 46.1	175 23.2	10 1.3	2 0.3
29歳以下	35 100.0	25 71.4	35 100.0	34 97.1	29 82.9	6 17.1	5 14.3	15 42.9	16 45.7	12 34.3	-9 25.7	0 0.0	0 0.0
30歳代	77 100.0	53 68.8	77 100.0	73 94.8	57 74.0	18 23.4	18 23.4	45 58.4	46 59.7	35 45.5	18 23.4	3 3.9	0 0.0
40歳代	336 100.0	261 77.7	331 98.5	322 95.8	260 77.4	93 27.7	92 27.4	220 65.5	218 64.9	175 52.1	84 25.0	4 1.2	0 0.0
50歳代	293 100.0	225 76.8	289 98.6	278 94.9	252 86.0	86 29.4	75 25.6	208 71.0	184 62.8	121 41.3	62 21.2	3 1.0	1 0.3
60歳以上	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

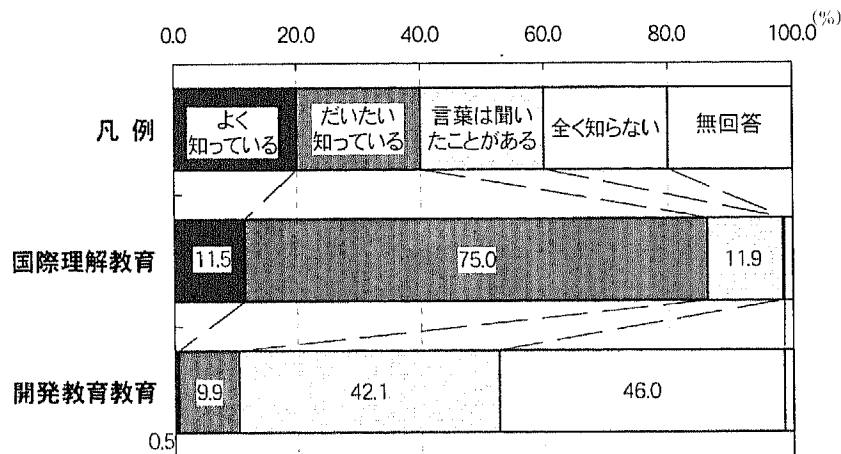
● 開発教育の認知度

問3. あなたは「開発教育」について、どの程度ご存知ですか？ [○は1つ] **担当教員**

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 よく知っている | 2 だいたい知っている |
| 3 言葉は聞いたことがある | 4 全く知らない |

開発教育の認知度は、「全く知らない」46.0%、「言葉は聞いたことがある」42.1%と、国際理解教育とは対称的に低くなっています。

学校区分別では、わずかながらですが、国際理解教育とは逆に、高等学校の方がより知られている傾向にあります。



03開発教育の認知度S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	よく知っている	だいたい知っている	言葉は聞いたことがある	全く知らない	無回答
合計	755 100.0	4 0.5	75 9.9	318 42.1	347 46.0	11 1.5
小学校	458 100.0	1 0.2	34 7.4	198 43.2	219 47.9	6 1.3
中学校	183 100.0	1 0.5	23 12.6	81 44.3	76 41.5	2 1.1
高等学校	86 100.0	2 2.3	14 16.3	29 33.7	38 44.2	3 3.5
盲・聾・養護学校	19 100.0	0 0.0	3 15.8	6 31.6	10 52.6	0 0.0

● 開発教育の範ちゅう・イメージ

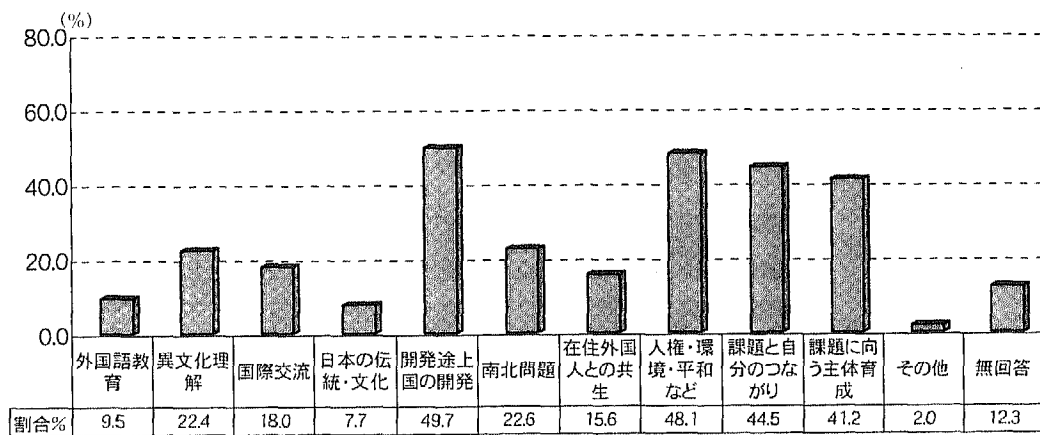
問4. 「開発教育」の教育の範ちゅうとして、あなたが該当すると思われるものは次のどれですか？

内容を知らない方はイメージされるものをお答えください。【〇は該当するもの全て】 担当教員

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 外国語教育 | 2 異文化理解 |
| 3 国際交流 | 4 日本の伝統・文化 |
| 5 開発途上国の開発 | 6 南北問題 |
| 7 在住外国人との共生 | 8 人権・環境・平和など地球規模で考えるべき課題 |
| 9 地球規模の課題と自分とのつながり | 10 様々な課題の解決に向かおうとする主体の育成 |
| 11 その他 (<small>具体的に</small>) | |

開発教育の範ちゅう・イメージとしては、認知度が低いことから、「イメージ」としての回答といえます。そのことを前提に分析すると、開発教育のイメージとしては、言葉からとらえて「開発途上国の開発」が49.7%と最も高く、「人権・環境・平和など地球規模の課題」48.1%、「地球規模の課題と自分とのつながり」44.5%、「様々な課題解決に向かう主体の育成」41.2%となっています。これは、「環境と開発」という地球環境問題との連想があるかもしれません。

学校区分別には大きく変わりません。



04開発教育のイメージT

上段：回答数 下段：割合%	全体	外国語教育	異文化理解	国際交流	日本の伝統・文化	開発途上国の開発	南北問題	在住外国人との共生	人権・環境・平和など地球規模課題	地球規模の課題と自分とのつながり	様々な課題解決に向かう主体の育成	その他	無回答
合計	755 100.0	72 9.5	169 22.4	136 18.0	58 7.7	375 49.7	171 22.6	118 15.6	363 48.1	336 44.5	311 41.2	15 2.0	93 12.3
小学校	458 100.0	45 9.8	107 23.4	84 18.3	38 8.3	230 50.2	91 19.9	77 16.8	215 46.9	203 44.3	183 40.0	9 2.0	56 12.2
中学校	183 100.0	14 7.7	39 21.3	28 15.3	12 6.6	88 48.1	44 24.0	22 12.0	89 48.6	88 48.1	83 45.4	4 2.2	22 12.0
高等学校	86 100.0	7 8.1	16 18.6	16 18.6	4 4.7	44 51.2	31 36.0	14 16.3	46 53.5	32 37.2	34 39.5	1 1.2	13 15.1
盲・聾・養護学校	19 100.0	2 10.5	3 15.8	4 21.1	1 5.3	8 42.1	2 10.5	2 10.5	9 47.4	11 57.9	9 47.4	0 0.0	1 5.3

(2) 総合学習における「国際理解」への取り組みについて

● 総合学習で取り組まれている分野

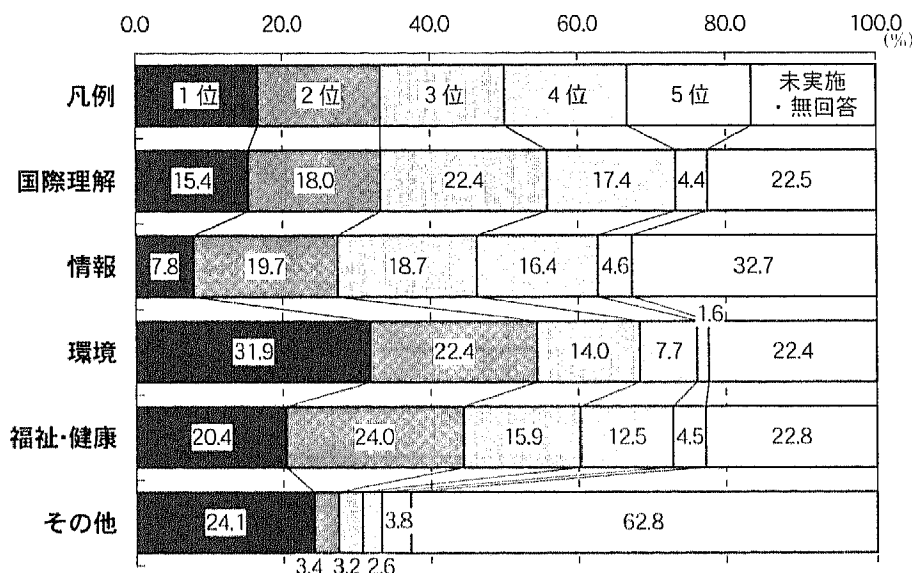
問5. 貴校の「総合学習」の授業で、平成15年度に扱ったまたは扱う予定の下記の分野のうち、時間数の多い順（概ねでOK）に番号をつけてください。扱っていない分野は番号を記入しない、総合学習を実施していない場合は全てに斜線を引いてください。[表に1～5の番号を記入] **学校全体**

総合学習分野	国際理解	情報	環境	福祉・健康	その他()
番号記入→					

総合学習の学習活動内容としては、「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動」、「生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動」、「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が例示されています。

横断的・総合的な課題についての学習活動を視点に取組分野を聞くと、総合学習において扱っている分野で最も多いのは、「環境」といえます。次いで「福祉・健康」か「その他」、その次が、「国際理解」といった状況です。

学校区分別にみると、高等学校ではほとんどの分野で「無回答」が多く、総合学習自体がまだ十分に取り組まれていることが伺われます。



「その他」で多かったテーマ

- ・地域・郷土・歴史・ふるさと
- ・進路・職業
- ・生き方・自己理解・自分さがし
- ・個人テーマ
- ・学校行事・交流
- ・米作り など

05-1総合での国際理解の順位S

上段： 回答数 下段： 割合%	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
合計	116 15.4	136 18.0	169 22.4	131 17.4	33 4.4	170 22.4
小学校	66 14.4	96 21.0	128 27.9	93 20.3	27 5.9	48 10.5
中学校	32 17.5	28 15.3	34 18.6	26 14.2	6 3.3	57 31.1
高等学校	12 14.0	8 9.3	2 2.3	7 8.1	0 0.0	57 66.3
盲・聾・ 養護学校	2 10.5	4 21.1	2 10.5	4 21.1	0 0.0	7 36.8

05-3総合での環境の順位S

上段： 回答数 下段： 割合%	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
合計	241 31.9	169 22.4	106 14.0	58 7.7	12 1.6	169 22.4
小学校	175 38.2	114 24.9	64 14.0	35 7.6	10 2.2	60 13.1
中学校	47 25.7	44 24.0	32 17.5	19 10.4	0 0.0	41 22.4
高等学校	8 9.3	6 7.0	7 8.1	2 2.3	1 1.2	62 72.1
盲・聾・ 養護学校	7 36.8	3 15.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3	5 26.3

05-2総合での情報の順位S

上段： 回答数 下段： 割合%	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
合計	59 7.8	149 19.7	141 18.7	124 16.4	35 4.6	247 32.8
小学校	40 8.7	104 22.7	102 22.3	98 21.4	20 4.4	94 20.5
中学校	13 7.1	27 14.8	35 19.1	20 10.9	10 5.5	78 42.6
高等学校	3 3.5	10 11.6	3 3.5	2 2.3	4 4.7	64 74.4
盲・聾・ 養護学校	3 15.8	6 31.6	0 0.0	2 10.5	1 5.3	7 36.8

05-4総合での福祉・健康の順位S

上段： 回答数 下段： 割合%	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
合計	154 20.4	181 23.9	120 15.9	94 12.5	34 4.5	172 22.8
小学校	69 15.1	103 22.4	90 19.7	87 19.0	28 6.1	81 17.7
中学校	72 39.4	54 29.5	19 10.4	6 3.3	3 1.6	29 15.8
高等学校	8 9.3	16 18.6	4 4.7	1 1.2	2 2.3	55 63.9
盲・聾・ 養護学校	2 10.5	3 15.8	6 31.6	0 0.0	1 5.3	7 36.8

05-5総合でのその他の順位S

上段： 回答数 下段： 割合%	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
合計	182 24.1	26 3.4	24 3.2	20 2.6	29 3.8	474 62.9
小学校	106 23.1	11 2.4	17 3.7	15 3.3	19 4.1	290 63.4
中学校	34 18.6	13 7.1	5 2.7	5 2.7	6 3.3	120 65.6
高等学校	34 39.5	1 1.2	1 1.2	0 0.0	2 2.3	48 55.8
盲・聾・ 養護学校	8 42.1	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5	8 42.1

● 総合学習における「国際理解」で扱っているテーマ

[限定設問]

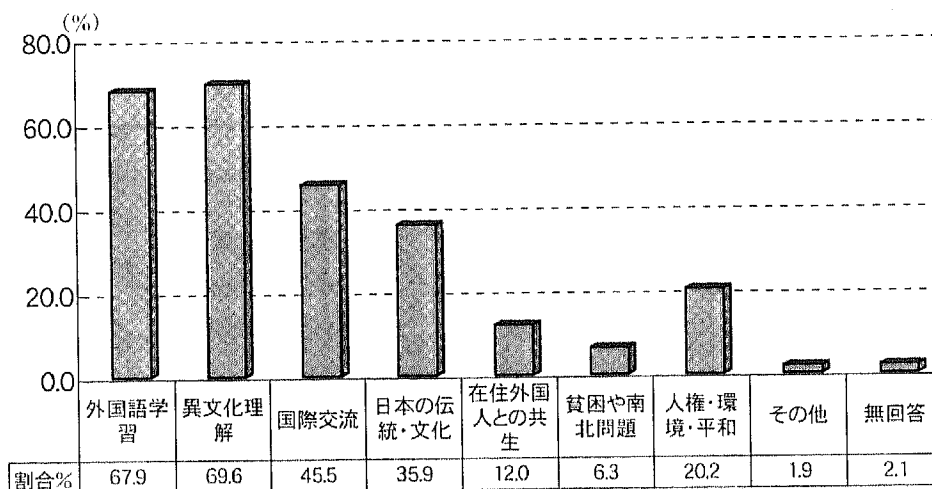
問6. 平成15年度の総合学習において「国際理解」を扱う学校に伺います。貴校では次のどのようなテーマで「国際理解」を扱っていますか？【〇は該当するもの全て】 学校全体

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 外国語学習 | 2 異文化理解 |
| 3 国際交流 | 4 日本の伝統・文化 |
| 5 在住外国人との共生 | 6 貧困や南北問題 |
| 7 人権・環境・平和 | 8 その他 (具体的に) |

総合学習で取り組む分野として「国際理解」を扱っている学校において、どのようなテーマで「国際理解」が扱われているか聞いたところ、「異文化理解」69.6%、「外国語学習」67.9%が高く、次いで、「国際交流」45.5%、「日本の伝統・文化」35.9%となっています。

この傾向は、「国際理解教育の範ちゅう・イメージ」の設問の回答傾向と符合しています。

また、学校区分別にみると、小学校においては、「国際理解」として「外国語学習」を行っている学校が84.4%と飛び抜けて高くなっており、国際理解＝外国語学習という図式がなりたっています。一方、高等学校では、「人権・環境・平和」を「国際理解」として捉えて取り組んでいる学校が44.8%あり、小・中学校の倍近い状況となっているのが特徴的です。



06総合での国際理解のテーマT

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	外国語学習	異文化理解	国際交流	日本の伝統・文化	在住外国人との共生	貧困や南北問題	人権・環境・平和	その他	無回答
合計	585 100.0	397 67.9	407 69.6	266 45.5	210 35.9	70 12.0	37 6.3	118 20.2	11 1.9	12 2.1
小学校	410 100.0	346 84.4	280 68.3	186 45.4	162 39.5	51 12.4	12 2.9	68 16.6	6 1.5	5 1.2
中学校	126 100.0	35 27.8	93 73.8	57 45.2	33 26.2	13 10.3	18 14.3	35 27.8	4 3.2	5 4.0
高等学校	29 100.0	8 27.6	23 79.3	15 51.7	7 24.1	5 17.2	7 24.1	13 44.8	0 0.0	2 6.9
盲・聾・ 養護学校	12 100.0	4 33.3	8 66.7	4 33.3	3 25.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0

● 総合学習において「国際理解」で扱わない理由

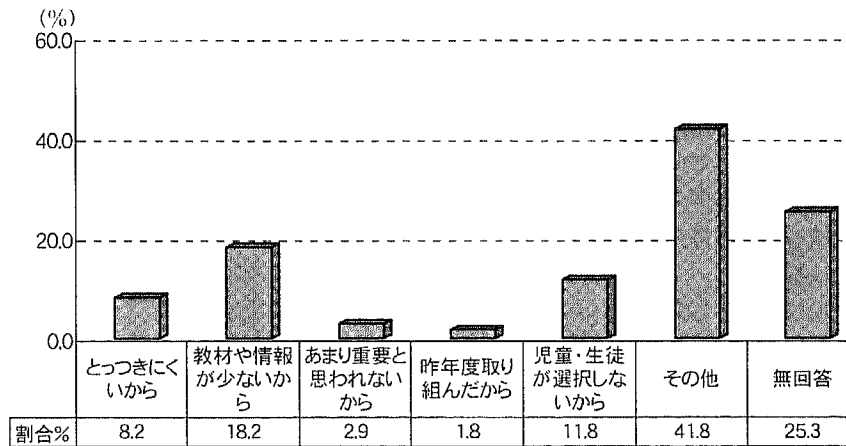
〔限定設問〕

問7. 平成15年度の総合学習において「国際理解」を扱わない学校に伺います。あなたは貴校で扱わない主な理由は何だと思えますか？〔〇は2つまで〕 学校全体

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 とっつきにくいから | 2 教材や情報が少ないから |
| 3 あまり重要と思われないから | 4 昨年度取り組んだから |
| 5 児童・生徒が選択しないから | 6 その他（ <small>具体的に</small> ） |

総合学習で「国際理解」を扱わない理由は、「その他」を除くと、「教材や情報が少ないから」18.2%、「児童・生徒が選択しないから」11.8%、「とっつきにくいから」8.2%となっています。

「その他」の理由は、次ページのとおりとなっています。



07総合で国際理解を扱わない理由T

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	とっつき にくいか ら	教材や情 報が少な いから	あまり重 要と思わ れないか ら	昨年度取 り組んだ から	児童・生 徒が選択 しないか ら	その他	無回答
合計	170 100.0	14 8.2	31 18.2	5 2.9	3 1.8	20 11.8	71 41.8	43 25.3
小学校	48 100.0	0 0.0	7 14.6	1 2.1	1 2.1	7 14.6	11 22.9	24 50.0
中学校	57 100.0	7 12.3	20 35.1	2 3.5	2 3.5	9 15.8	20 35.1	5 8.8
高等学校	57 100.0	6 10.5	3 5.3	2 3.5	0 0.0	1 1.8	35 61.4	14 24.6
盲・聾・ 養護学校	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	3 42.9	4 57.1	0 0.0

＜総合学習で「国際理解」を扱わない理由「その他」＞

◆小学校

- ・地域教材をテーマとしているから
- ・他の領域に重要と思う内容があるから
- ・国際理解教室（行事）があるので
- ・地域の特性を生かした本校独自の福祉・環境での取り組みが各学年系統的に位置づけられている
- ・他に行うことがあったから
- ・他の内容を重要と考えている
- ・学校独自のカリキュラムを組んでいるため
- ・教師の関心が低い
- ・子どもの意識があれば扱うことも考えている
- ・本年度の研究主題には合致しないから
- ・クラブで行っているから
- ・学校全体で「生きる」をテーマに取り組んでいるので余裕がない

◆中学校

- ・学校のテーマが決まっているから
- ・英語科の内容として扱うから
- ・福祉・環境をテーマにしているから
- ・時間がとれない（他の学習内容がある）
- ・小規模校で、担当する教員がいない
- ・他に選択しているから
- ・各学年の取組みの系統としてない
- ・他の取り組みでいっぱいだから
- ・英語や社会で取り組んでいる
- ・福祉・健康に取り組んでいるから
- ・学校の考え方
- ・取り扱うものがすでに決まっているから
- ・取り組む方法が異っている
- ・行事と関連させられない
- ・時間数が不足（他のテーマで精一杯）
- ・体験的学習をする場合の準備に時間が掛かる
- ・ふるさと学習が中心課題となっているから
- ・他領域に取り組んでいるから
- ・薬物使用禁止の研究発表のため（文科省指定）

◆盲・聾・養護学校

- ・養護学校では、その前に必要とする教科・領域があるから
- ・外国の方に来校してもらいたいと考えるが予算面で難しいため
- ・他に取り組むべきテーマがあるから
- ・生徒の学習意欲や能力に差が大きいため
- ・本校においては、進路に関する学習を優先している

◆高等学校

- ・テーマとして優先して考えるべきものが存在するので
- ・担当教員による
- ・1年ではあり方、生き方教育に重点を置いているから
- ・教員側が用意しなかつただけ
- ・工業高校のため「課題研究」で代替
- ・本校のテーマと直接的には関わらないから
- ・進路指導に重点を置いて取り組んだため 3
- ・他にやることがある
- ・生き方・在り方をテーマとしているので
- ・目標とするところが異なる
- ・来年度取り組む予定（3件）
- ・進学方針に合わない
- ・総合学習第1年度で1年生対象なので国際教育はまだ項目に入らない
- ・まず自己を知り学年が進んでから取り組ませればよい
- ・「課題研究」で代替し専門的能力の養成を主とするから
- ・学校への適応指導。生き方、在り方指導等の方が重要だと考えるから
- ・本年度総合学習を未実施
- ・上記に該当しない様々な理由による
- ・第2学年で（2004年度から）扱う予定になっている
- ・次年度のテーマは進路
- ・総合は行事を読みかえる
- ・毎年L Tの時間で行なう
- ・まず生徒に必要な事は将来に対する考えや職業観の育成が必要
- ・本校では3年間を通じて「進路実現」をテーマとしているから
- ・総合学習を実施していない
- ・提案されなかったから
- ・特に理由なし
- ・今年度は実施せず来年度より実施予定
- ・2年次に進路希望によっては選択的に扱うが共通テーマは他をやっている
- ・自己の在り方生き方の考察であるから
- ・来年度2年生の修学旅行が、海外であることに伴いそれに合わせて行う

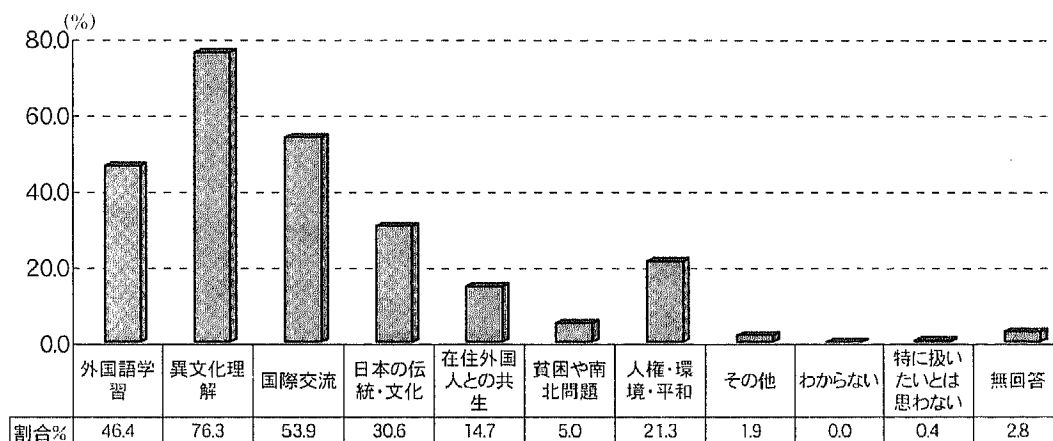
● 将来扱いたい「国際理解」のテーマ

問 8. あなたが、来年度以降の総合学習において「国際理解」を扱うとしたら、特にどのテーマを扱いたいと思いますか？ [〇は3つまで] 担当教員

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 1 外国語学習 | 2 異文化理解 |
| 3 国際交流 | 4 日本の伝統・文化 |
| 5 在住外国人との共生 | 6 貧困や南北問題 |
| 7 人権・環境・平和 | 8 その他 (<small>具体的に</small>) |
| 9 わからない | 10 特に扱いたいとは思わない |

将来扱いたい「国際理解」のテーマは、「異文化理解」76.3%、「国際交流」53.9%、「外国語学習」46.4%の順となっています。この順は、現在、総合学習における「国際理解」で扱っているテーマの順となりました。

学校区分別の傾向も、現在のテーマと同じであり、基本的には現状追認型といえます。



08将来扱いたい国際理解のテーマT

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	外国語学習	異文化理解	国際交流	日本の伝統・文化	在住外国人との共生	貧困や南北問題	人権・環境・平和	その他	わからない	特に扱いたいとは思わない	無回答
合計	755 100.0	350 46.4	576 76.3	407 53.9	231 30.6	111 14.7	38 5.0	161 21.3	14 1.9	0 0.0	3 0.4	21 2.8
小学校	458 100.0	295 64.4	359 78.4	268 58.5	138 30.1	62 13.5	9 2.0	73 15.9	1 0.2	0 0.0	0 0.0	8 1.7
中学校	183 100.0	28 15.3	142 77.6	99 54.1	57 31.1	36 19.7	15 8.2	56 30.6	4 2.2	0 0.0	1 0.5	5 2.7
高等学校	86 100.0	18 20.9	58 67.4	27 31.4	24 27.9	7 8.1	14 16.3	29 33.7	8 9.3	0 0.0	2 2.3	7 8.1
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	7 36.8	12 63.2	10 52.6	7 36.8	4 21.1	0 0.0	1 5.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3

(3) 総合学習のねらいと課題について

● 基礎学力と総合学習のねらいとする力、どちらが大切か

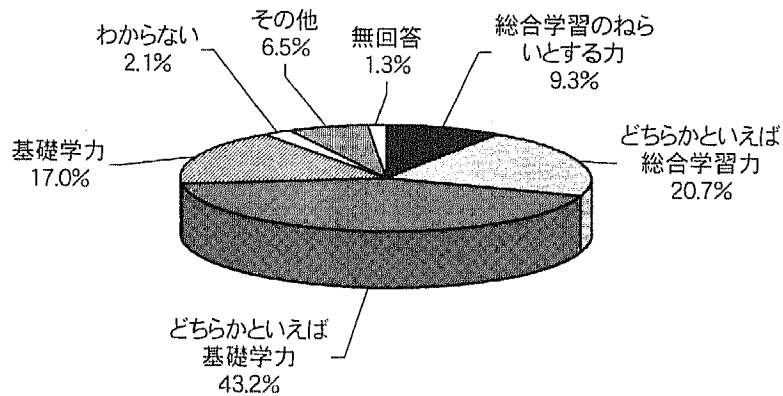
問9. 学校教育で育む力として、総合学習のねらい[※]とする力を育むことが求められています。その一方で学校週5日制とともに基礎学力の低下が懸念されています。どちらの力も大切ですが、強いていけばあなたは学校教育でどちらの力を育むことがより大切だと考えますか？【〇は1つ】担当教員

※ 総合学習のねらい：「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」と「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1 総合学習のねらいとする力 | 2 どちらかといえば総合学習のねらいとする力 |
| 3 どちらかといえば基礎学力 | 4 基礎学力 |
| 5 わからない | 6 その他 (<small>具体的に</small>) |

総合学習のねらいとする力と基礎学力と比べて、強いていけばどちらが大切か聞いたところ、「基礎学力」、「どちらかといえば基礎学力」をあわせた割合が60.2%と、「総合学習のねらいとする力」と「どちらかといえば総合学習力」をあわせた割合の2倍近くとなり、基礎学力の方が大切とする意見が多くなりました。

学校区分別には大きな違いは見られませんが、年代別にみると、「29歳以下」では基礎学力の計が7割近く、「50歳代」では平均より3ポイント低くなっており、傾向として、若い人の方が基礎学力を大切とする傾向が見られました。



09総合学習と基礎学力の大切さT

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	総合学習 のねらい とする力	どちらか といえば 総合学習 力	どちらか といえば 基礎学力	基礎学力	わからな い	その他	無回答
合計	755 100.0	70 9.3	156 20.7	326 43.1	128 17.0	16 2.1	49 6.5	10 1.3
小学校	458 100.0	48 10.5	96 21.0	209 45.6	64 14.0	7 1.5	29 6.3	5 1.1
中学校	183 100.0	12 6.6	32 17.5	78 42.6	43 23.5	7 3.8	11 6.0	0 0.0
高等学校	86 100.0	6 7.0	18 20.9	28 32.6	21 24.4	1 1.2	7 8.1	5 5.8
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	2 10.5	8 42.1	7 36.8	0 0.0	1 5.3	1 5.3	0 0.0

09総合学習と基礎学力の大切さ（年代別）

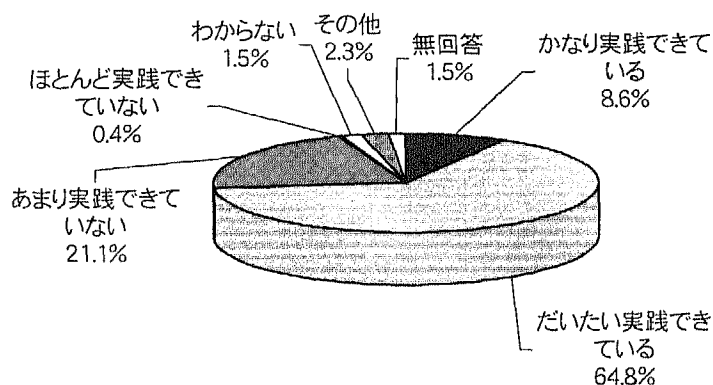
上段： 回答数 下段： 割合%	全体	総合学習 のねらい とする力	どちらか とえば 総合学習 力	どちらか とえば 基礎学力	基礎学力	わからな い	その他	無回答
合計	755 100.0	70 9.3	156 20.7	326 43.1	128 17.0	16 2.1	49 6.5	10 1.3
29歳以下	35 100.0	1 2.9	5 14.3	14 39.9	10 28.6	4 11.4	1 2.9	0 0.0
30歳代	77 100.0	7 9.1	13 16.9	35 45.4	13 16.9	5 6.5	3 3.9	1 1.3
40歳代	336 100.0	25 7.4	73 21.7	159 47.3	52 15.5	5 1.5	17 5.1	5 1.5
50歳代	293 100.0	36 12.3	61 20.8	113 38.6	53 18.1	2 0.7	25 8.5	3 1.0
60歳以上	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

● 総合学習のねらいに見合った実践度

問10. 総合学習を始めてからこれまでをふりかえって、貴校で総合学習のねらいに見合った実践はできているとあなたは思いますか？【〇は1つ】 学校全体

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 1 かなり実践できている | 2 だいたい実践できている |
| 3 あまり実践できていない | 4 ほとんど実践できていない |
| 5 わからない | 6 その他（ <small>自由記述</small> ） |

「かなり実践できている」8.6%、「だいたい実践できている」64.8%とあわせると73.4%と、比較的实践できていると自己評価しています。



10総合学習のねらいと実践度S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	かなり実 践でき ている	だいたい 実践でき ている	あまり実 践でき ていない	ほとんど 実践でき ていない	わからな い	その他	無回答
合計	755 100.0	65 8.6	489 64.6	159 21.1	3 0.4	11 1.5	17 2.3	11 1.5
小学校	458 100.0	46 10.0	326 71.2	77 16.8	1 0.2	3 0.7	2 0.4	3 0.7
中学校	183 100.0	16 8.7	104 56.8	55 30.1	0 0.0	4 2.2	4 2.2	0 0.0
高等学校	86 100.0	3 3.5	41 47.7	19 22.1	2 2.3	2 2.3	11 12.8	8 9.3
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	0 0.0	10 52.7	7 36.8	0 0.0	2 10.5	0 0.0	0 0.0

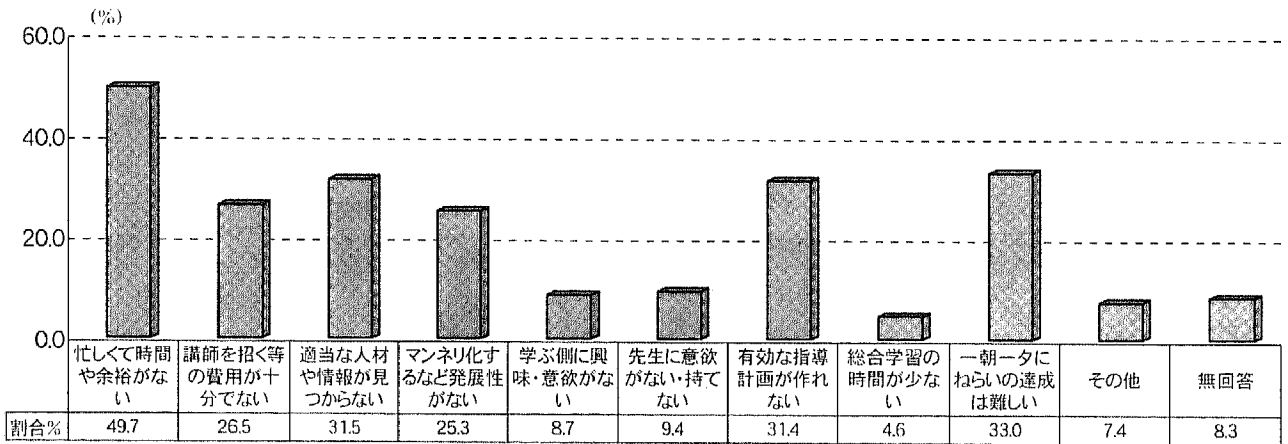
● 総合学習のねらいの未達成要因

問11. 貴校で総合学習のねらいが達成できない、もしくは達成しにくい要因があるとしたら、それは何ですか？ あなたが思い当たるものがあれば選んでください。【〇は4つまで】 学校全体

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 忙しくて時間や余裕がない | 2 講師を招くなどの費用が十分でない |
| 3 適当な人材や情報が見つからない | 4 やることがマンネリ化するなど発展性がない |
| 5 学ぶ側に興味・意欲がない | 6 先生に意欲がない又は意欲が持てない |
| 7 ねらいに有効な指導計画が作れない | 8 総合学習の時間が少ない |
| 9 一朝一夕にこんなねらいの達成は難しい | 10 その他 (<small>別紙</small>) |

総合学習のねらいの未達成要因として最も多い要因は、「忙しくて時間や余裕がない」49.7%であり、次いで、「一朝一夕にねらいの達成は難しい」33.0%、「適当な人材や情報が見つからない」31.5%、「有効な指導計画が作れない」31.4%という順になっています。

学校区分別にみると、小学校、中学校、高等学校の順に、「学ぶ側に興味・意欲がない」の割合が高くなる傾向になっています。逆に、「マンネリ化するなど発展性がない」、「ねらいに有効な指導計画が作れない」は、高等学校、中学校、小学校の順に割合が高くなっており、より早く総合学習に取り組んだ上での課題が出てきていると考えられます。



11総合学習のねらいの未達成要因

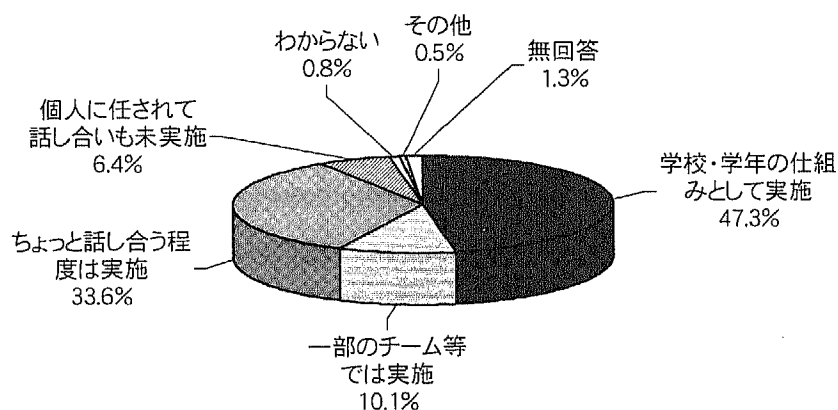
上段：回答数 下段：割合%	全体	忙しくて時間や余裕がない	講師を招くなどの費用が十分でない	適当な人材や情報が見つからない	マンネリ化するなど発展性がない	学ぶ側に興味・意欲がない	先生に意欲がない又は意欲が持てない	ねらいに有効な指導計画が作れない	総合学習の時間が少ない	一朝一夕にねらいの達成は難しい	その他	無回答
合計	755 100.0	375 49.7	200 26.5	238 31.5	191 25.3	66 8.7	71 9.4	237 31.4	35 4.6	249 33.0	56 7.4	63 8.3
小学校	458 100.0	228 49.8	118 25.8	154 33.6	126 27.5	17 3.7	38 8.3	162 35.4	15 3.3	155 33.8	27 5.9	42 9.2
中学校	183 100.0	98 53.6	50 27.3	60 32.8	54 29.5	25 13.7	19 10.4	53 29.0	10 5.5	58 31.7	12 6.6	8 4.4
高等学校	86 100.0	39 45.3	24 27.9	18 20.9	5 5.8	22 25.6	12 14.0	15 17.4	6 7.0	31 36.0	12 14.0	8 9.3
盲・聾・養護学校	19 100.0	6 31.6	8 42.1	6 31.6	4 21.1	2 10.5	1 5.3	4 21.1	4 21.1	4 21.1	5 26.3	1 5.3

● 総合学習の評価・改善の実行度

問12. 貴校では、総合学習のねらいに対して、学校全体または各学年で、評価、課題検討、改善策の立案・実施を行っている、または今年度行う予定にしていますか？ [○は1つ] **学校全体**

- 1 評価から改善策の立案・実施まで学校・学年の仕組みとして行っている（または行う予定である）
- 2 一部のチーム等では評価から改善策の立案・実施まで行っている（または行う予定である）
- 3 評価や課題について話し合う程度は行っている（または行う予定である）
- 4 ほとんど個人にまかされて十分な話し合いは行っていない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に）

総合学習のねらいの実現に向けて、評価や改善策の立案・実施についての実施状況を聞いたところ、「学校・学年の仕組みとして実施している」が47.3%と半数近くの学校では、実施しているという結果でした。



12総合学習の評価・改善の実行度 S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	学校・学年の仕組みとして実施	一部のチーム等では実施	ちょっと話し合う程度は実施	個人に任されて話し合いも未実施	わからない	その他	無回答
合計	755 100.0	357 47.3	76 10.1	254 33.6	48 6.4	6 0.8	4 0.5	10 1.3
小学校	458 100.0	240 52.4	27 5.9	157 34.3	28 6.1	2 0.4	0 0.0	4 0.9
中学校	183 100.0	76 41.5	23 12.6	71 38.8	12 6.6	1 0.5	0 0.0	0 0.0
高等学校	86 100.0	33 38.3	22 25.6	12 14.0	7 8.1	3 3.5	4 4.7	5 5.8
盲・聾・養護学校	19 100.0	4 21.1	3 15.8	10 52.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3

(4) 「人類共通の課題を扱う教育」の取り組みについて

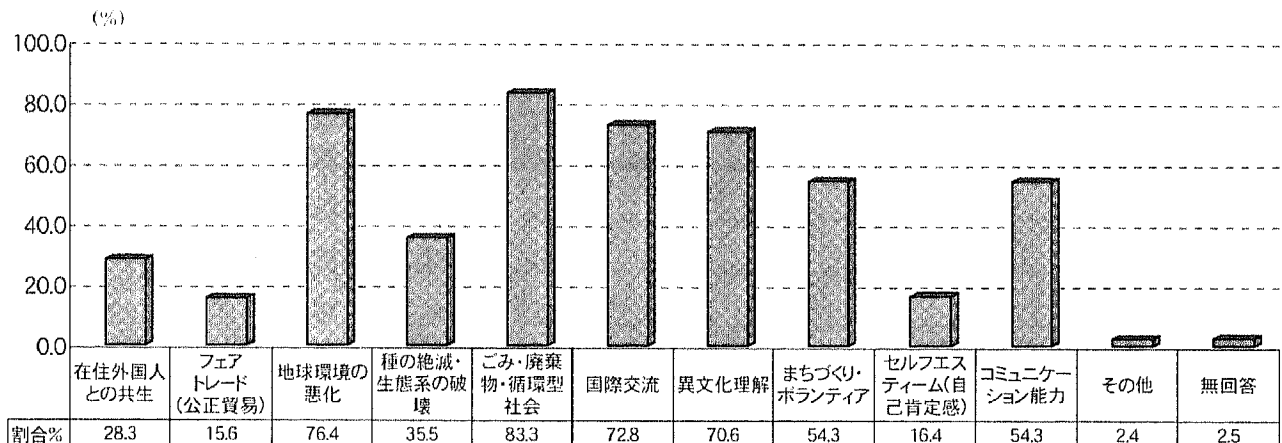
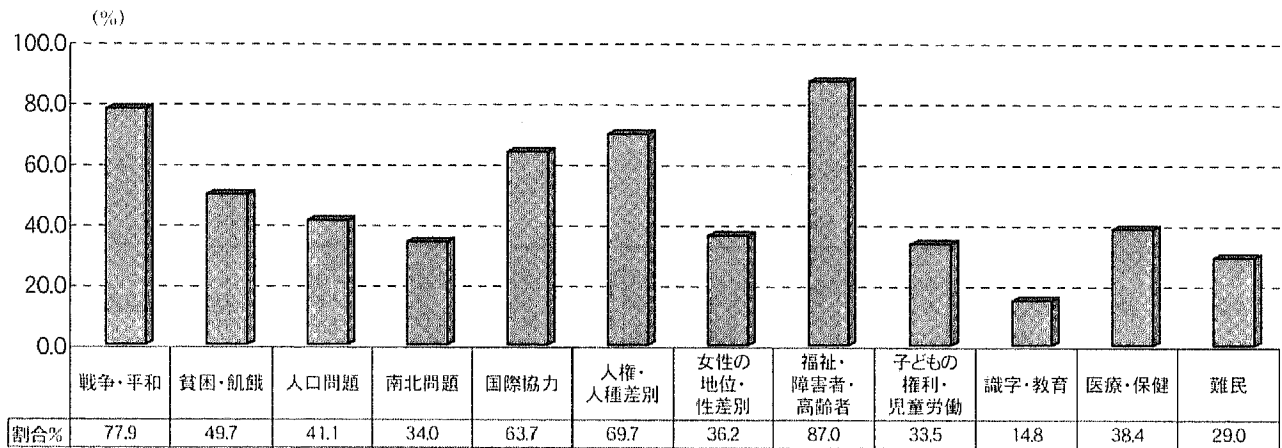
● 学校における過去3年間の「人類共通の課題」を授業で取り組んだ実績

問13-A. 貴校で、下表の1～23の「人類共通の課題」のうち、過去3年間でふりかえり、「授業」で取り組んだことのあるものをお答えください。→ [A欄の1～23に、○は該当するもの全て] 学校全体

- | | | |
|----------------|-----------------|---------------|
| 1 戦争・平和 | 2 貧困・飢餓 | 3 人口問題 |
| 4 南北問題 | 5 国際協力 | 6 人権・人種差別 |
| 7 女性の地位・性差別 | 8 福祉・障害者・高齢者 | 9 子どもの権利・児童労働 |
| 10 識字・教育 | 11 医療・保健 | 12 難民 |
| 13 在住外国人との共生 | 14 フェアトレード | 15 地球環境の悪化 |
| 16 種の絶滅・生態系の破壊 | 17 ごみ・廃棄物・循環型社会 | 18 国際交流 |
| 19 異文化理解 | 20 まちづくり・ボランティア | 21 セルフエスティーム |
| 22 コミュニケーション能力 | 23 その他 () | |

「人類共通の課題」のうち、過去3年間の授業で取り組んだことのあるもので最も多いのは、「福祉・障害者・高齢者」の87.0%であり、次いで、「ごみ・廃棄物・循環型社会」83.3%、「戦争・平和」77.9%、「地球環境の悪化」76.4%、「人権・人種差別」69.7%、「国際交流」63.7%の順となっています。

学校区分別では、「女性の地位・性差別」、「子どもの権利・児童労働」、「難民」、「フェアトレード」、「種の絶滅・生態系の破壊」といったテーマは、小学校での実施率が高等学校より比較的低くなっています。



13-A 「人類共通の課題を扱う教育」の授業での実践度 S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	戦争・平和	貧困・飢餓	人口問題	南北問題	国際協力	人権・人種差別	女性の地位・性差別	福祉・障害者・高齢者	子どもの権利・児童労働	識字・教育	医療・保健
合計	755 100.0	588 77.9	375 49.7	310 41.1	257 34.0	481 63.7	526 69.7	273 36.2	657 87.0	253 33.5	112 14.8	290 38.4
小学校	458 100.0	348 76.0	192 41.9	133 29.0	88 19.2	280 61.1	312 68.1	124 27.1	408 89.1	112 24.5	45 9.8	160 34.9
中学校	183 100.0	150 82.0	118 64.5	110 60.1	105 57.4	126 68.9	138 75.4	90 49.2	168 91.8	87 47.5	48 26.2	83 45.4
高等学校	86 100.0	72 83.7	56 65.1	59 68.6	56 65.1	63 73.3	62 72.1	52 60.5	63 73.3	45 52.3	15 17.4	38 44.2
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	12 63.2	6 31.6	5 26.3	5 26.3	7 36.8	10 52.6	4 21.1	12 63.2	6 31.6	2 10.5	5 26.3

上段： 回答数 下段： 割合%	難民	在住外国人との共生	フェアトレード(公正貿易)	地球環境の悪化	種の絶滅・生態系の破壊	ごみ・廃棄物・循環型社会	国際交流	異文化理解	まちづくり・ボランティア	セルフエスティーム(自己肯定感)	コミュニケーション能力	その他
合計	219 29.0	214 28.3	118 15.6	577 76.4	268 35.5	629 83.3	550 72.8	533 70.6	410 54.3	124 16.4	410 54.3	18 2.4
小学校	95 20.7	121 26.4	46 10.0	356 77.7	139 30.3	407 88.9	350 76.4	333 72.7	241 52.6	76 16.6	261 57.0	13 2.8
中学校	76 41.5	59 32.2	44 24.0	146 79.8	77 42.1	143 78.1	135 73.8	133 72.7	124 67.8	33 18.0	102 55.7	3 1.6
高等学校	43 50.0	29 33.7	28 32.6	64 74.4	45 52.3	57 66.3	53 61.6	49 57.0	36 41.9	12 14.0	34 39.5	1 1.2
盲・聾・ 養護学校	3 15.8	4 21.1	0 0.0	7 36.8	5 26.3	17 89.5	8 42.1	14 73.7	5 26.3	2 10.5	10 52.6	1 5.3

● 人類共通の課題を取り上げた教科等

問13-B ○をつけた1~23の「人類共通の課題」ごとに、取り上げた教科等をお答えください。

→ [B欄のa~d(1~4)に、○は該当するもの全て] 学校全体

- 1 総合学習 2 社会 3 ホームルーム (4 その他→再分類化)
 4 国語 5 英語・外国語 6 道徳 7 理科・生物 8 家庭・生活
 9 保健・体育 10 その他()

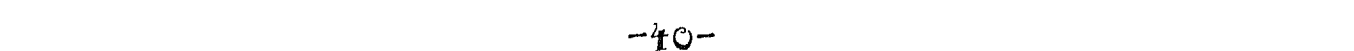
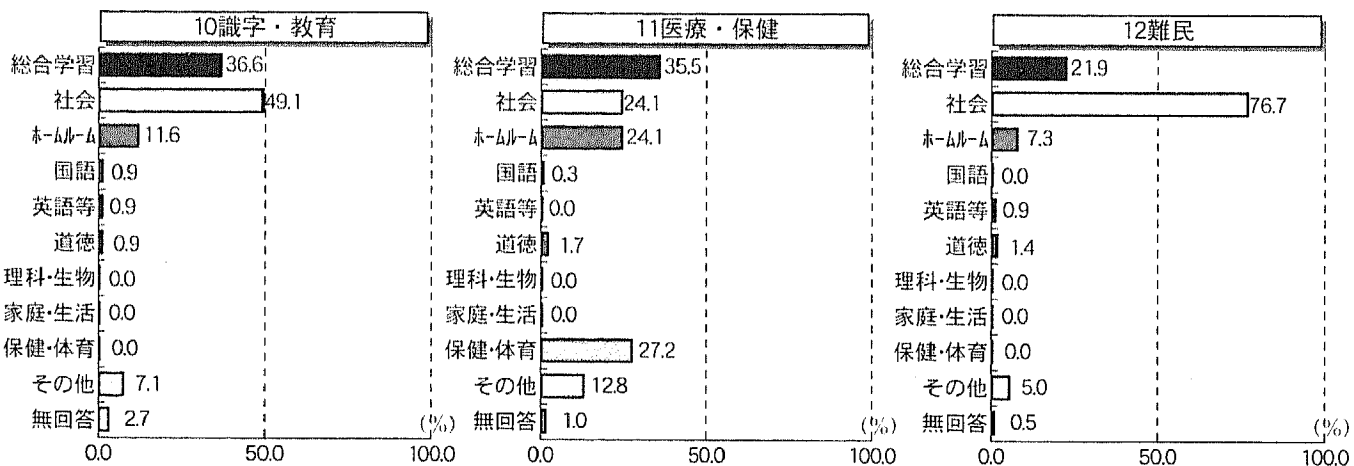
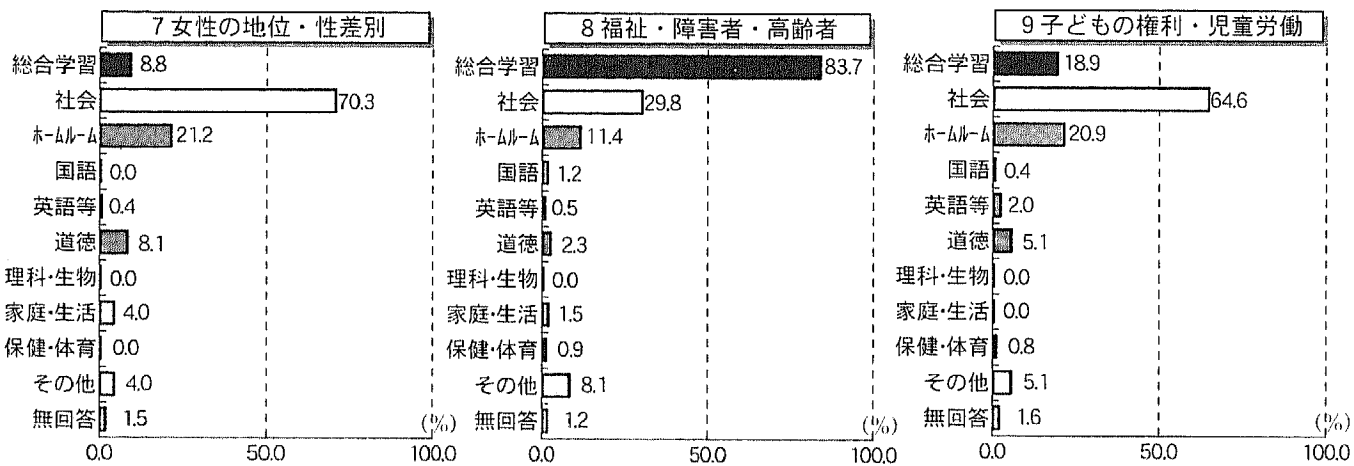
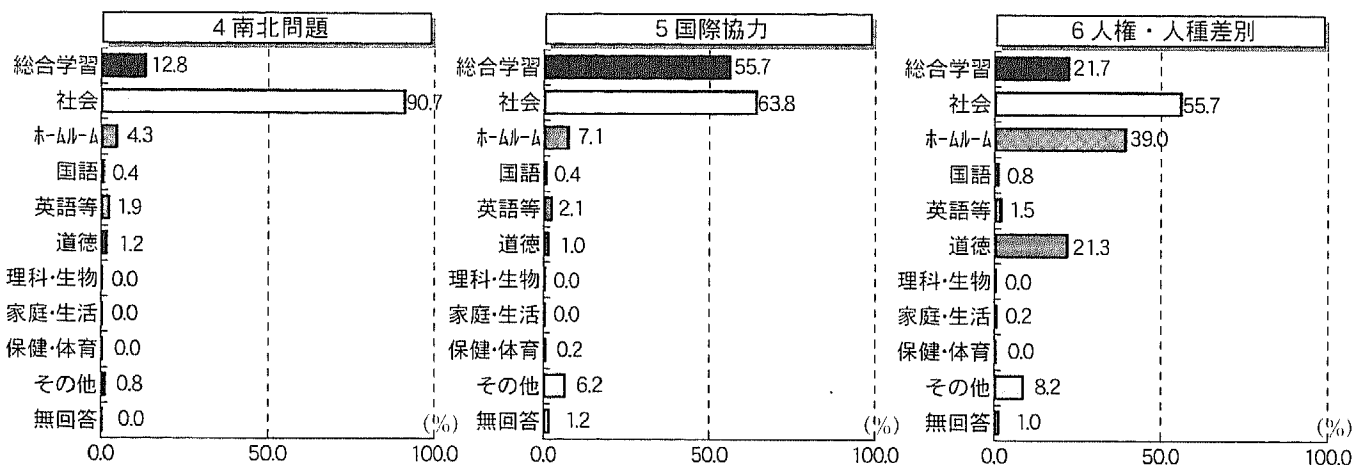
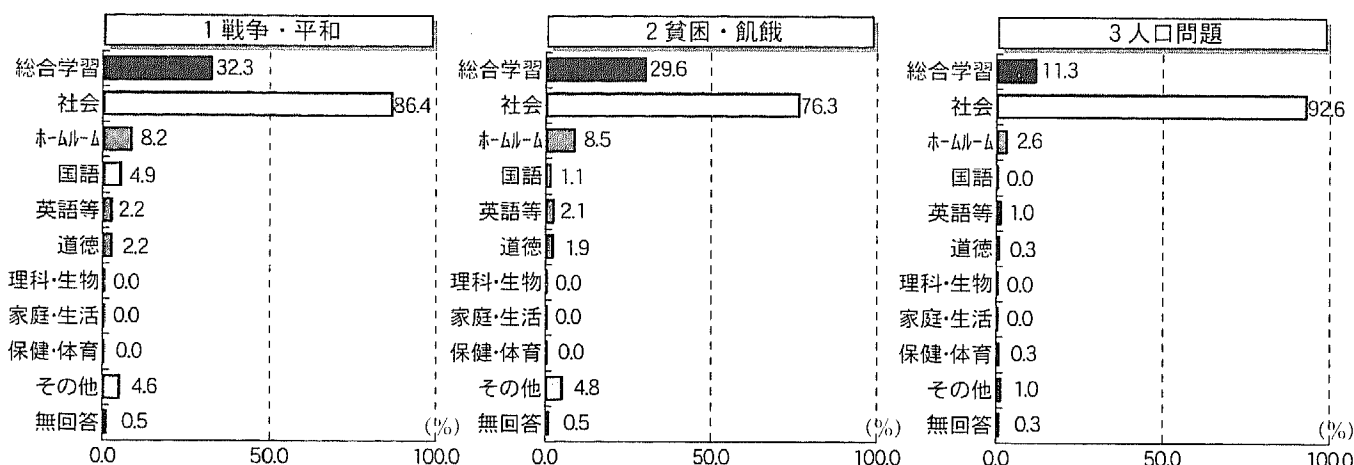
全体として、「人類共通の課題」を取り上げる授業で最も多いのは、「総合学習」の時間が50.7%であり、ほぼ同率で「社会」の時間が50.5%となっています。

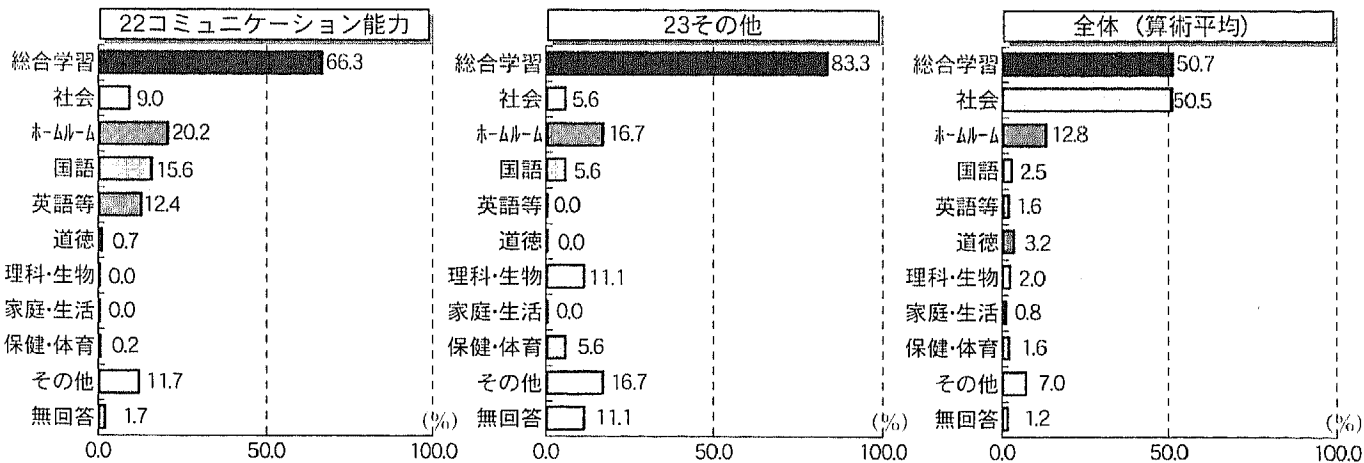
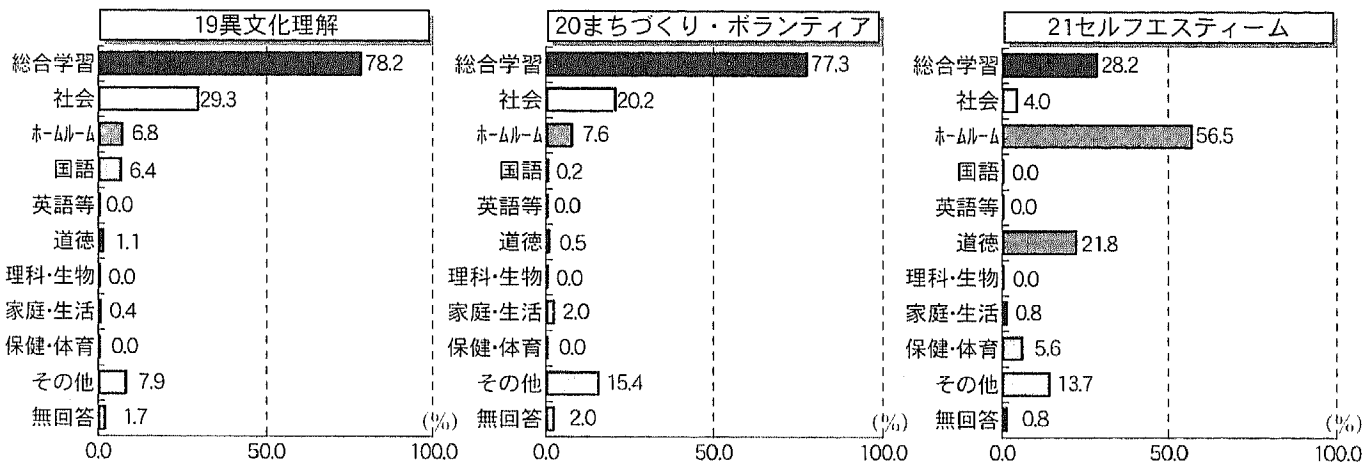
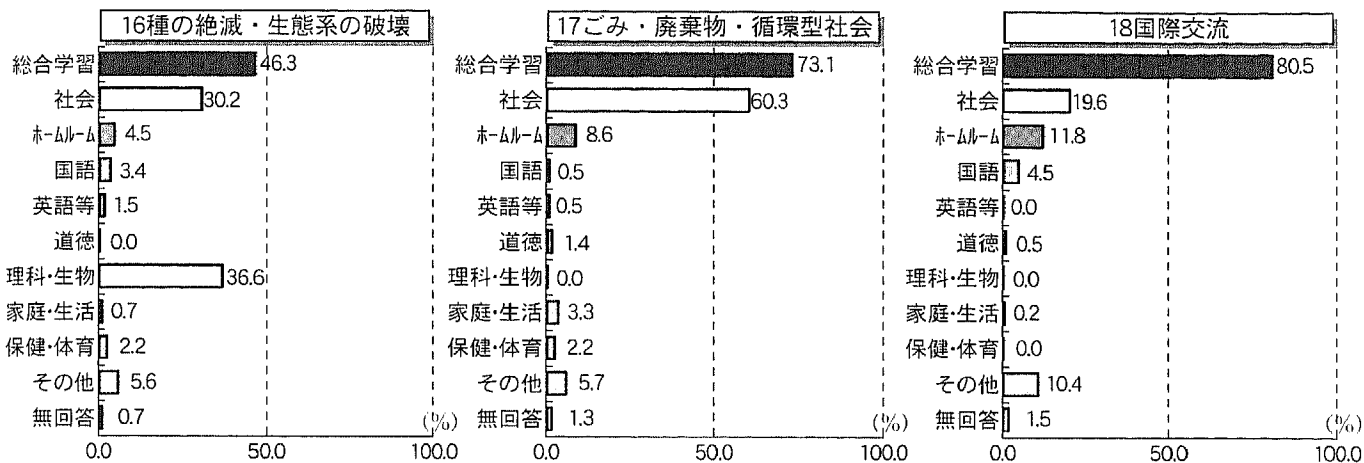
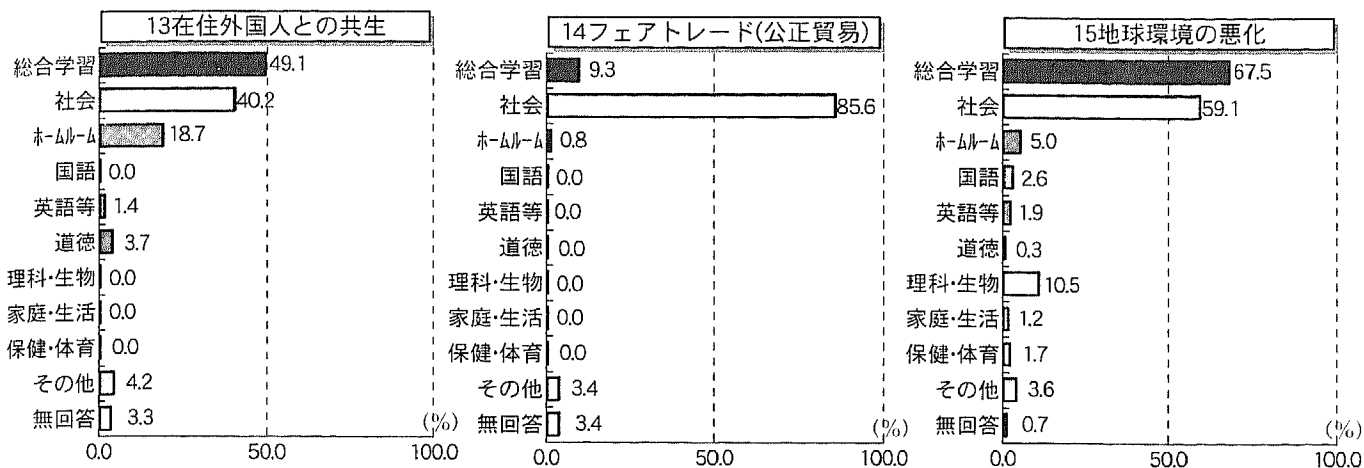
また、「戦争・平和」、「貧困・飢餓」、「人口問題」、「南北問題」、「人権・人種差別」、「女性の地位・性差別」、「子どもの権利・児童労働」、「難民」、「フェアトレード」といった課題については、「社会」の時間で取り組まれることが圧倒的に多い結果となっています。

一方、「総合学習」で多く取り組まれている課題は、「福祉・障害者・高齢者」、「国際交流」、「異文化理解」、「まちづくり・ボランティア」、「コミュニケーション能力」、「その他」となっています。

そのほか、「セルフエスティーム」56.5%をはじめ、「人権・人種差別」、「女性の地位・性差別」、「子どもの権利・児童労働」、「医療・保健」、「コミュニケーション能力」といった課題が、「ホームルーム」の時間にも比較的多く取り上げられています。

なお、「その他」としては、学校行事、児童会・生徒会、集会、新教科が挙げられていました。





13-B 人類共通の課題を取り上げた教科等S

上段：回答者数 下段：割合%	全体	総合学 習	社会	ホーム ルーム	国語	英語・ 外国語	道徳	理科・ 生物	家庭・ 生活	保健・ 体育	その他	無回答
1戦争・平和	588 100.0	190 32.3	508 86.4	48 8.2	29 4.9	13 2.2	13 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	27 4.6	3 0.5
2貧困・飢餓	375 100.0	111 29.6	286 76.3	32 8.5	4 1.1	8 2.1	7 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 4.8	2 0.5
3人口問題	310 100.0	35 11.3	287 92.6	8 2.6	0 0.0	3 1.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	1 0.3	3 1.0	1 0.3
4南北問題	257 100.0	33 12.8	233 90.7	11 4.3	1 0.4	5 1.9	3 1.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.8	0 0.0
5国際協力	481 100.0	268 55.7	307 63.8	34 7.1	2 0.4	10 2.1	5 1.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	30 6.2	6 1.2
6人権・人種差別	526 100.0	114 21.7	293 55.7	205 39.0	4 0.8	8 1.5	112 21.3	0 0.0	1 0.2	0 0.0	43 8.2	5 1.0
7女性の地位・性 差別	273 100.0	24 8.8	192 70.3	58 21.2	0 0.0	1 0.4	22 8.1	0 0.0	11 4.0	0 0.0	11 4.0	4 1.5
8福祉・障害者・ 高齢者	657 100.0	550 83.7	196 29.8	75 11.4	8 1.2	3 0.5	15 2.3	0 0.0	10 1.5	6 0.9	53 8.1	8 1.2
9子どもの権利・ 児童労働	254 100.0	48 18.9	164 64.6	53 20.9	1 0.4	5 2.0	13 5.1	0 0.0	0 0.0	2 0.8	13 5.1	4 1.6
10識字・教育	112 100.0	41 36.6	55 49.1	13 11.6	1 0.9	1 0.9	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 7.1	3 2.7
11医療・保健	290 100.0	103 35.5	70 24.1	70 24.1	1 0.3	0 0.0	5 1.7	0 0.0	0 0.0	79 27.2	37 12.8	3 1.0
12難民	219 100.0	48 21.9	168 76.7	16 7.3	0 0.0	2 0.9	3 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 5.0	1 0.5
13在住外国人と の共生	214 100.0	105 49.1	86 40.2	40 18.7	0 0.0	3 1.4	8 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 4.2	7 3.3
14フェアトレード	118 100.0	11 9.3	101 85.6	1 0.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 3.4	4 3.4
15地球環境の悪 化	579 100.0	391 67.5	342 59.1	29 5.0	15 2.6	11 1.9	2 0.3	61 10.5	7 1.2	10 1.7	21 3.6	4 0.7
16種の絶滅・生 態系の破壊	268 100.0	124 46.3	81 30.2	12 4.5	9 3.4	4 1.5	0 0.0	98 36.6	2 0.7	6 2.2	15 5.6	2 0.7
17ごみ・廃棄 物・循環型社会	629 100.0	460 73.1	379 60.3	54 8.6	3 0.5	3 0.5	9 1.4	0 0.0	21 3.3	14 2.2	36 5.7	8 1.3
18国際交流	550 100.0	443 80.5	108 19.6	65 11.8	25 4.5	0 0.0	3 0.5	0 0.0	1 0.2	0 0.0	57 10.4	8 1.5
19異文化理解	533 100.0	417 78.2	156 29.3	36 6.8	34 6.4	0 0.0	6 1.1	0 0.0	2 0.4	0 0.0	42 7.9	9 1.7
20まちづくり・ ボランティア	410 100.0	317 77.3	83 20.2	31 7.6	1 0.2	0 0.0	2 0.5	0 0.0	8 2.0	0 0.0	63 15.4	8 2.0
21セルフエス ティーム	124 100.0	35 28.2	5 4.0	70 56.5	0 0.0	0 0.0	27 21.8	0 0.0	1 0.8	7 5.6	17 13.7	1 0.8
22コミュニケー ション能力	410 100.0	272 66.3	37 9.0	83 20.2	64 15.6	51 12.4	3 0.7	0 0.0	0 0.0	1 0.2	48 11.7	7 1.7
23その他	18 100.0	15 83.3	1 5.6	3 16.7	1 5.6	0 0.0	0 0.0	2 11.1	0 0.0	1 5.6	3 16.7	2 11.1
全 体 (算術合計・平均)	8,195 100.0	4,155 50.7	4,138 50.5	1,047 12.8	203 2.5	131 1.6	260 3.2	161 2.0	64 0.8	128 1.6	571 7.0	100 1.2

● 人類共通の課題ごとの学習方法

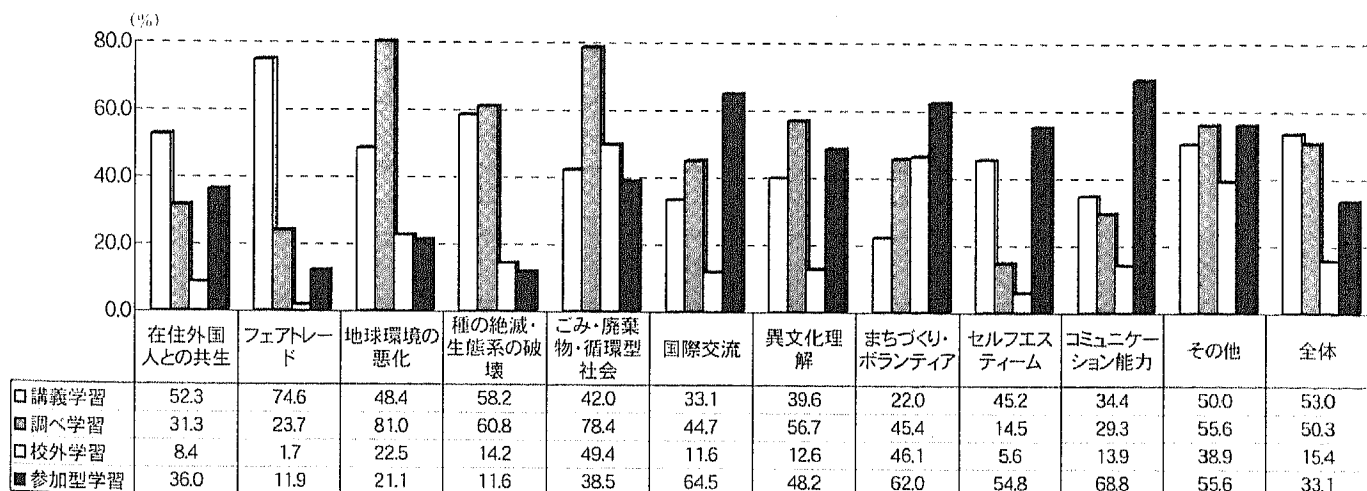
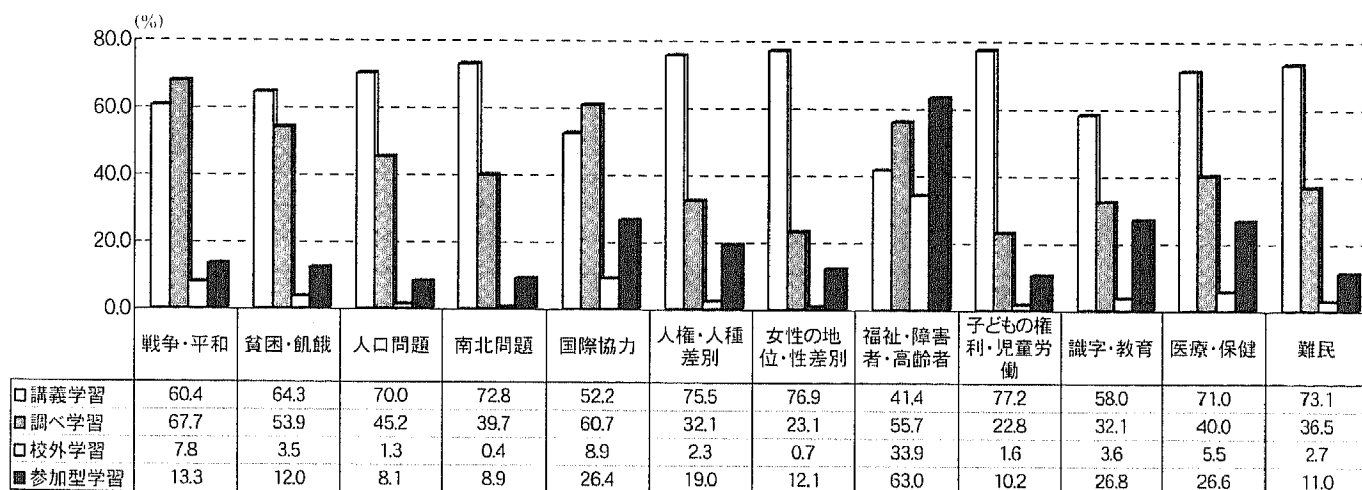
問13-C ○をつけた1～23の「人類共通の課題」ごとに、学習方法をお答えください。

→ [C欄のア～オ(1～5)のそれぞれに、○は該当するもの全て] 学校全体

- 1 講義学習 2 調べ学習 3 校外学習 4 参加型学習 5 その他 ()

「人類共通の課題」に関する授業における学習方法として最も多いのは、全体では「講義学習」の53.0%、次いで「調べ学習」50.3%、「参加型学習」33.1%となっています。

課題別にみると、「福祉・障害者・高齢者」63.0%、「国際交流」64.5%、「まちづくり・ボランティア」62.0%、「コミュニケーション能力」68.8%などで、「参加型学習」で取り組まれている割合が全体の2倍と高くなっています。また、「戦争・平和」、「国際協力」、「地球環境の悪化」、「種の絶滅・生態系の破壊」、「ごみ・廃棄物・循環型社会」、「異文化理解」といった課題では、「調べ学習」の割合が比較的高くなっています。



13-C 人類共通の課題の学習方法

上段：回答者数 下段：割合%	全体	講義学習	調べ学習	校外学習	参加型 学習	その他	無回答
1戦争・平和	588 100.0	355 60.4	398 67.7	46 7.8	78 13.3	19 3.2	7 1.2
2貧困・飢餓	375 100.0	241 64.3	202 53.9	13 3.5	45 12.0	9 2.4	13 3.5
3人口問題	310 100.0	217 70.0	140 45.2	4 1.3	25 8.1	1 0.3	8 2.6
4南北問題	257 100.0	187 72.8	102 39.7	1 0.4	23 8.9	0 0.0	7 2.7
5国際協力	481 100.0	251 52.2	292 60.7	43 8.9	127 26.4	15 3.1	12 2.5
6人権・人種差別	526 100.0	397 75.5	169 32.1	12 2.3	100 19.0	43 8.2	15 2.9
7女性の地位・性 差別	273 100.0	210 76.9	63 23.1	2 0.7	33 12.1	9 3.3	15 5.5
8福祉・障害者・ 高齢者	657 100.0	272 41.4	366 55.7	223 33.9	414 63.0	10 1.5	13 2.0
9子どもの権利・ 児童労働	254 100.0	196 77.2	58 22.8	4 1.6	26 10.2	4 1.6	11 4.3
10識字・教育	112 100.0	65 58.0	36 32.1	4 3.6	30 26.8	1 0.9	5 4.5
11医療・保健	290 100.0	206 71.0	116 40.0	16 5.5	77 26.6	6 2.1	10 3.4
12難民	219 100.0	160 73.1	80 36.5	6 2.7	24 11.0	6 2.7	5 2.3
13在住外国人と の共生	214 100.0	112 52.3	67 31.3	18 8.4	77 36.0	6 2.8	9 4.2
14フェアトレード	118 100.0	88 74.6	28 23.7	2 1.7	14 11.9	1 0.8	6 5.1
15地球環境の悪 化	579 100.0	280 48.4	469 81.0	130 22.5	122 21.1	6 1.0	15 2.6
16種の絶滅・生 態系の破壊	268 100.0	156 58.2	163 60.8	38 14.2	31 11.6	4 1.5	12 4.5
17ごみ・廃棄 物・循環型社会	629 100.0	264 42.0	493 78.4	311 49.4	242 38.5	7 1.1	19 3.0
18国際交流	550 100.0	182 33.1	246 44.7	64 11.6	355 64.5	22 4.0	24 4.4
19異文化理解	533 100.0	211 39.6	302 56.7	67 12.6	257 48.2	13 2.4	18 3.4
20まちづくり・ ボランティア	410 100.0	90 22.0	186 45.4	189 46.1	254 62.0	13 3.2	8 2.0
21セルフエス ティーム	124 100.0	56 45.2	18 14.5	7 5.6	68 54.8	11 8.9	6 4.8
22コミュニケー ション能力	410 100.0	141 34.4	120 29.3	57 13.9	282 68.8	18 4.4	19 4.6
23その他	18 100.0	9 50.0	10 55.6	7 38.9	10 55.6	1 5.6	2 11.1
全 体 (算術合計・平均)	8,195 100.0	4,346 53.0	4,124 50.3	1,264 15.4	2,714 33.1	225 2.7	259 3.2

● 担当教員個人の「人類共通の課題」を授業で取り組んだ実績と今後の希望

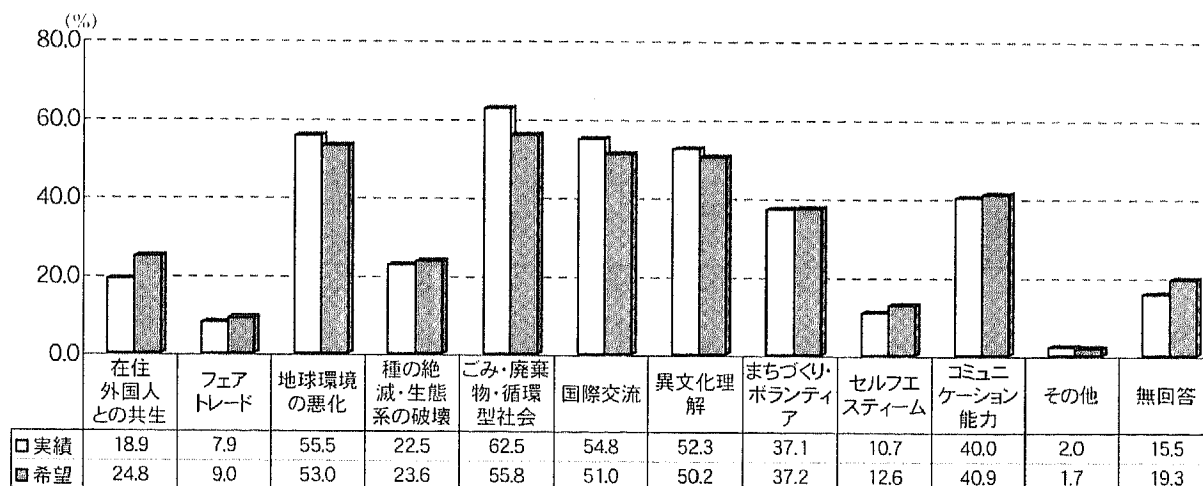
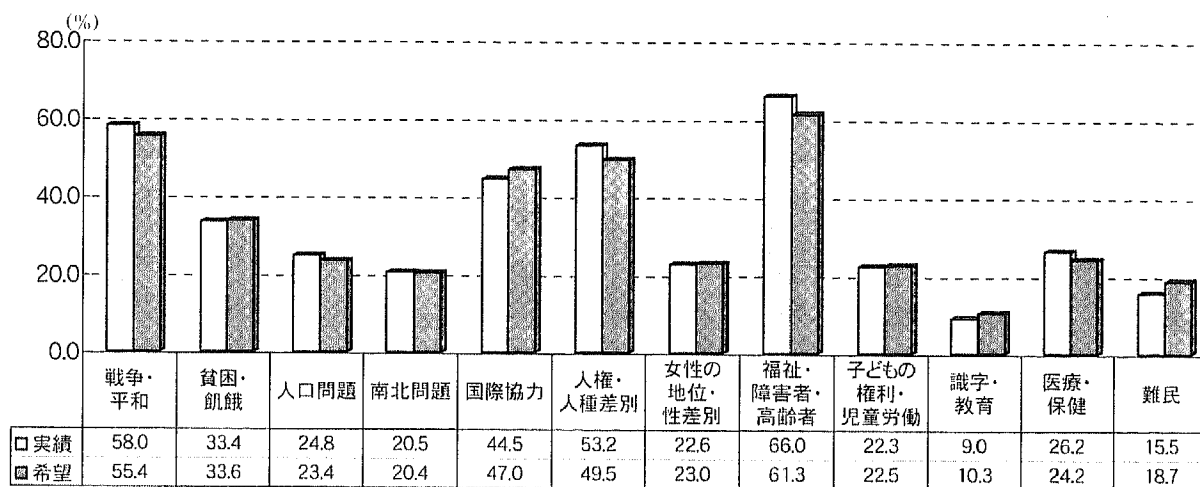
問13-D・E あなたの実績および今後（とも）取り組みたい「人類共通の課題」をお答えください。

→ [D欄、E欄それぞれの1～23に、○は該当するもの全て] 担当教員

- | | | |
|----------------|-----------------|---------------|
| 1 戦争・平和 | 2 貧困・飢餓 | 3 人口問題 |
| 4 南北問題 | 5 国際協力 | 6 人権・人種差別 |
| 7 女性の地位・性差別 | 8 福祉・障害者・高齢者 | 9 子どもの権利・児童労働 |
| 10 識字・教育 | 11 医療・保健 | 12 難民 |
| 13 在住外国人との共生 | 14 フェアトレード | 15 地球環境の悪化 |
| 16 種の絶滅・生態系の破壊 | 17 ごみ・廃棄物・循環型社会 | 18 国際交流 |
| 19 異文化理解 | 20 まちづくり・ボランティア | 21 セルフエスティーム |
| 22 コミュニケーション能力 | 23 その他（ ） | |

回答いただいた担当教員自身が、「人類共通の課題」の授業で取り組んだことのあるものは、「福祉・障害者・高齢者」の66.0%が最も多く、次いで、「ごみ・廃棄物・循環型社会」62.5%、「戦争・平和」58.0%、「地球環境の悪化」55.5%の順になっており、学校全体の順位と同じとなっています。

また、今後の希望については、これまでの実績とほぼ同じような順位の傾向となっています。



13-D 担当教員個人の「人類共通の課題」を授業で取り組んだ実績

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	戦争・平 和	貧困・飢 餓	人口問題	南北問題	国際協力	人権・人 種差別	女性の地 位・性差 別	福祉・障 害者・高 齢者	子どもの 権利・児 童労働	識字・教 育	医療・保 健
合計	755 100.0	438 58.0	252 33.4	187 24.8	155 20.5	336 44.5	402 53.2	171 22.6	498 66.0	168 22.3	68 9.0	198 26.2
小学校	458 100.0	268 58.5	134 29.3	79 17.2	51 11.1	202 44.1	248 54.1	84 18.3	314 68.6	80 17.5	26 5.7	117 25.5
中学校	183 100.0	100 54.6	72 39.3	60 32.8	59 32.2	83 45.4	95 51.9	47 25.7	124 67.8	48 26.2	24 13.1	51 27.9
高等学校	86 100.0	54 62.8	37 43.0	41 47.7	39 45.3	42 48.8	44 51.2	34 39.5	44 51.2	31 36.0	14 16.3	23 26.7
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	11 57.9	6 31.6	4 21.1	3 15.8	6 31.6	11 57.9	3 15.8	11 57.9	7 36.8	2 10.5	5 26.3

上段： 回答数 下段： 割合%	難民	在住外国 人との共 生	フェアト レード (公正貿 易)	地球環境 の悪化	種の絶 滅・生態 系の破壊	ごみ・廃 棄物・循 環型社会	国際交流	異文化理 解	まちづく り・ボラ ンティア	セルフエ スティ ーム(自己 肯定感)	コミュニ ケーション 能力	その他
合計	117 15.5	143 18.9	60 7.9	419 55.5	170 22.5	472 62.5	414 54.8	395 52.3	280 37.1	81 10.7	302 40.0	15 2.0
小学校	53 11.6	87 19.0	24 5.2	260 56.8	99 21.6	308 67.2	275 60.0	247 53.9	167 36.5	46 10.0	195 42.6	10 2.2
中学校	33 18.0	34 18.6	17 9.3	105 57.4	40 21.9	104 56.8	89 48.6	93 50.8	83 45.4	23 12.6	70 38.3	3 1.6
高等学校	26 30.2	18 20.9	18 20.9	44 51.2	26 30.2	39 45.3	37 43.0	37 43.0	23 26.7	9 10.5	26 30.2	1 1.2
盲・聾・ 養護学校	3 15.8	3 15.8	1 5.3	6 31.6	4 21.1	17 89.5	9 47.4	14 73.7	4 21.1	2 10.5	8 42.1	1 5.3

13-E 担当教員個人の今後授業で取り組みたい「人類共通の課題」

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	戦争・平 和	貧困・飢 餓	人口問題	南北問題	国際協力	人権・人 種差別	女性の地 位・性差 別	福祉・障 害者・高 齢者	子どもの 権利・児 童労働	識字・教 育	医療・保 健
合計	755 100.0	418 55.4	254 33.6	177 23.4	154 20.4	355 47.0	374 49.5	174 23.0	463 61.3	170 22.5	78 10.3	183 24.2
小学校	458 100.0	253 55.2	135 29.5	86 18.8	61 13.3	216 47.2	224 48.9	83 18.1	291 63.5	82 17.9	35 7.6	101 22.1
中学校	183 100.0	103 56.3	71 38.8	51 27.9	52 28.4	89 48.6	100 54.6	53 29.0	117 63.9	49 26.8	27 14.8	49 26.8
高等学校	86 100.0	47 54.7	40 46.5	36 41.9	35 40.7	42 48.8	38 44.2	34 39.5	41 47.7	30 34.9	13 15.1	25 29.1
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	11 57.9	6 31.6	2 10.5	4 21.1	6 31.6	9 47.4	2 10.5	10 52.6	6 31.6	2 10.5	5 26.3

上段： 回答数 下段： 割合%	難民	在住外国 人との共 生	フェアト レード (公正貿 易)	地球環境 の悪化	種の絶 滅・生態 系の破壊	ごみ・廃 棄物・循 環型社会	国際交流	異文化理 解	まちづく り・ボラ ンティア	セルフエ スティ ーム(自己 肯定感)	コミュニ ケーション 能力	その他
合計	141 18.7	187 24.8	68 9.0	400 53.0	178 23.6	421 55.8	385 51.0	379 50.2	281 37.2	95 12.6	309 40.9	13 1.7
小学校	67 14.6	108 23.6	29 6.3	247 53.9	106 23.1	278 60.7	251 54.8	237 51.7	176 38.4	55 12.0	197 43.0	7 1.5
中学校	42 23.0	49 26.8	18 9.8	103 56.3	44 24.0	91 49.7	87 47.5	89 48.6	74 40.4	25 13.7	77 42.1	4 2.2
高等学校	29 33.7	25 29.1	20 23.3	43 50.0	25 29.1	36 41.9	34 39.5	39 45.3	26 30.2	12 14.0	25 29.1	1 1.2
盲・聾・ 養護学校	2 10.5	3 15.8	1 5.3	4 21.1	2 10.5	13 68.4	10 52.6	11 57.9	3 15.8	2 10.5	8 42.1	1 5.3

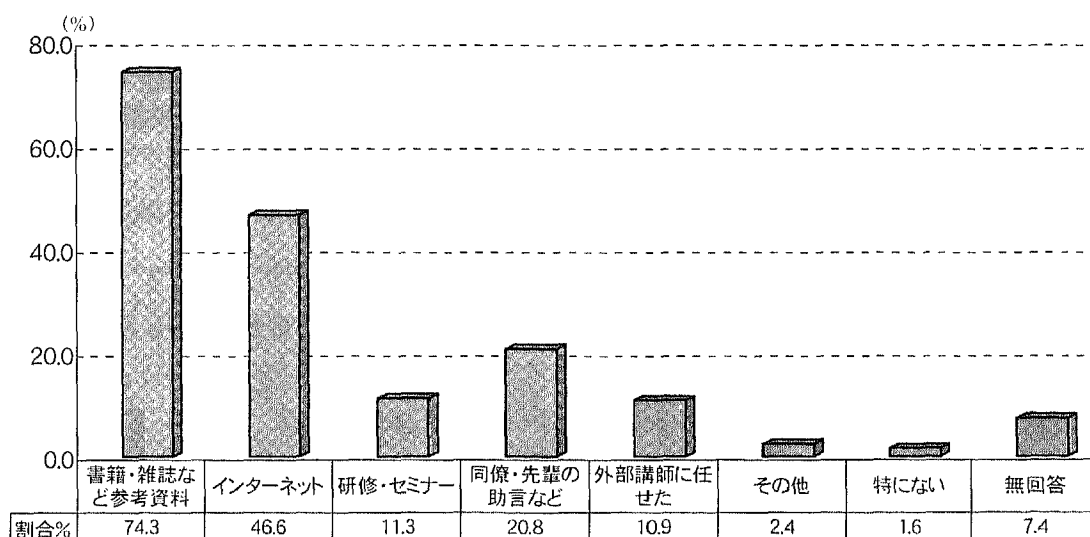
● 「人類共通の課題」の授業計画立案に参考にしたもの

問14. あなたは授業計画立案に何を参考にしましたか？ [〇は2つまで] 担当教員

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1 書籍・雑誌などの参考資料 | 2 インターネット |
| 3 研修・セミナー | 4 同僚・先輩の助言など |
| 5 外部講師に任せた | 6 その他 (<small>具体的に</small>) |
| 7 特にない | |

「人類共通の課題」の授業を行う際、授業計画を立てるうえで参考にしたものは、「書籍・雑誌などの参考資料」の74.3%が最も多く、次いで「インターネット」46.6%となっており、紙媒体、電子媒体による一方の情報が多くなっています。

学校区分別にみると、「研修・セミナー」、「同僚・先輩の助言など」、「外部講師に任せた」といった選択肢で、小学校、中学校、高等学校の順に、割合が減る傾向にあります。



14 「人類共通の課題」の授業計画立案の参考にしたものT

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	書籍・雑誌など参考資料	インターネット	研修・セミナー	同僚・先輩の助言など	外部講師に任せた	その他	特にない	無回答
合計	755 100.0	561 74.3	352 46.6	85 11.3	157 20.8	82 10.9	18 2.4	12 1.6	56 7.4
小学校	458 100.0	345 75.3	214 46.7	55 12.0	111 24.2	56 12.2	8 1.7	7 1.5	26 5.7
中学校	183 100.0	135 73.8	92 50.3	19 10.4	29 15.8	18 9.8	7 3.8	5 2.7	11 6.0
高等学校	86 100.0	62 72.1	36 41.9	8 9.3	7 8.1	4 4.7	1 1.2	0 0.0	17 19.8
盲・聾・養護学校	19 100.0	14 73.7	8 42.1	1 5.3	8 42.1	3 15.8	2 10.5	0 0.0	0 0.0

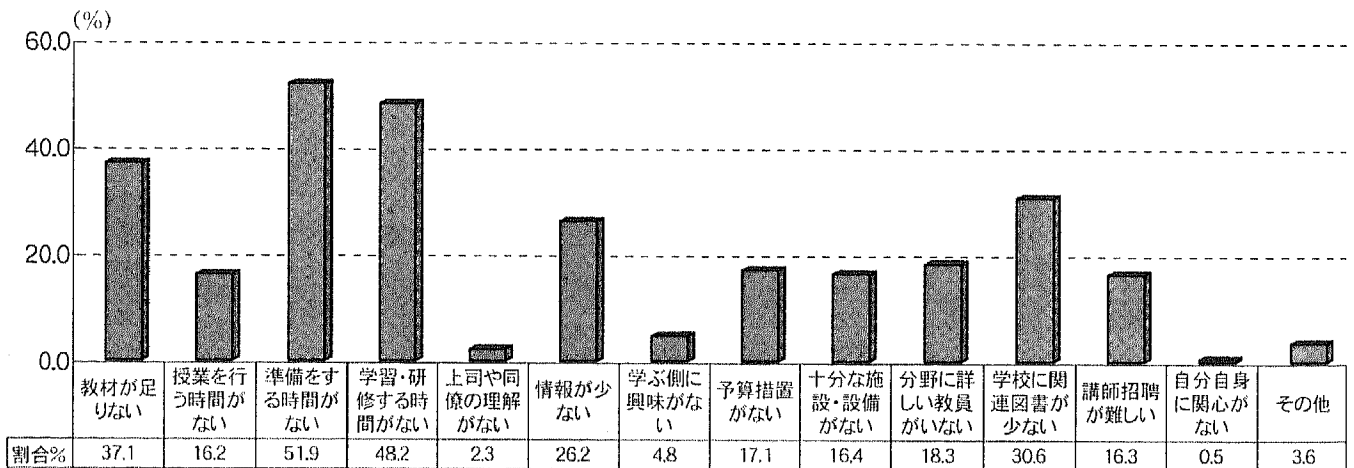
● 「人類共通の課題」の授業を進めるうえでの課題

問15. 授業を進めるうえで、あなたが課題と思われたことをお答えください。〔〇は4つまで〕 担当教員

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 1 教材が足りない | 2 授業を行う時間がない |
| 3 準備をする時間がない | 4 自分が学習・研修する時間がない |
| 5 上司や同僚の理解がない | 6 情報が少ない |
| 7 学ぶ側に興味がない | 8 予算措置がない |
| 9 十分な施設・設備がない | 10 各分野に詳しい教員がいない |
| 11 学校図書館に関連図書が少ない | 12 講師招聘が難しい |
| 13 自分自身に関心がない | 14 その他 (<small>具体的に</small>) |

「人類共通の課題」の授業を進めるうえでの教員が課題と思うのは、「準備する時間がない」51.9%、「学習・研修する時間がない」48.2%が上位2位を占めており、共に「時間がない」ということが課題となっています。次いで、「教材が足りない」37.1%、「学校関連図書が少ない」30.6%、「情報が少ない」26.2%の順となっており、いわゆる教材や情報が「足りない」ことが第2のカテゴリーとして課題となっています。

学校区分別にみると、高等学校では教材や情報が足りないとする割合は比較的少なく、「予算措置がない」26.7%、「学ぶ側に興味がない」14.0%で、比較的高い割合となっています。盲・聾・用号学校でも「予算措置がない」が52.6%と特に高くなっています。



15「人類共通の課題」の授業を進めるうえでの課題 T

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	教材が足りない	授業を行う時間がない	準備をする時間がない	自分が学習・研修する時間がない	上司や同僚の理解がない	情報が少ない	学ぶ側に興味がない
合計	755 100.0	280 37.1	122 16.2	392 51.9	364 48.2	17 2.3	198 26.2	36 4.8
小学校	458 100.0	194 42.4	57 12.4	241 52.6	232 50.7	9 2.0	138 30.1	10 2.2
中学校	183 100.0	60 32.8	41 22.4	104 56.8	92 50.3	6 3.3	42 23.0	13 7.1
高等学校	86 100.0	16 18.6	18 20.9	39 45.3	29 33.7	2 2.3	9 10.5	12 14.0
盲・聾・養護学校	19 100.0	8 42.1	5 26.3	5 26.3	6 31.6	0 0.0	7 36.8	1 5.3

上段： 回答数 下段： 割合%	予算措置がない	十分な施設・設備がない	各分野に詳しい教員が少ない	学校図書館に関連図書が少ない	講師招聘が難しい	自分自身に関心がない	その他	無回答
合計	129 17.1	124 16.4	138 18.3	231 30.6	123 16.3	4 0.5	27 3.6	53 7.0
小学校	69 15.1	72 15.7	86 18.8	172 37.6	84 18.3	2 0.4	15 3.3	20 4.4
中学校	26 14.2	40 21.9	37 20.2	41 22.4	29 15.8	2 1.1	8 4.4	10 5.5
高等学校	23 26.7	10 11.6	11 12.8	9 10.5	5 5.8	0 0.0	3 3.5	21 24.4
盲・聾・養護学校	10 52.6	1 5.3	3 15.8	7 36.8	4 21.1	0 0.0	1 5.3	0 0.0

● 学校において「人類共通の課題を扱う教育」に取り組んだことによる成果 →「3 自由記入意見」参照

〔限定設問〕

問16. あなたが取り組んでみて、良かったことや成果を教えてください。〔自由記入〕担当教員

実際に、「人類共通の課題を扱う教育」に取り組んだことのある教員に、取り組んでみて良かったことや成果を聞きました。

詳しくは、p.11～14に、学校区分別、子ども・教員別の成果と保護者、地域の成果に分けて、整理しています。また、さらに個別の自由記入文を、後述の「3 自由記入意見」の項に掲載しています。

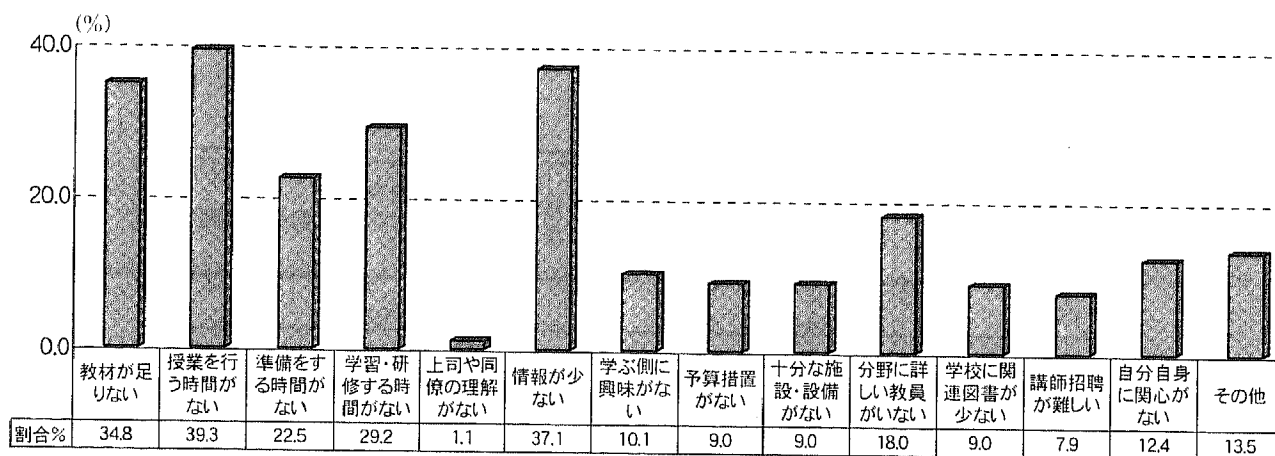
● 授業で「人類共通の課題」に取り組まなかった理由

問17. 授業で問13の1～23の「人類共通の課題」に取り組んだことのない方に伺います。あなたが取り組まなかった理由は何ですか？〔○は4つまで〕担当教員

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 教材が足りない | 2 授業を行う時間がない |
| 3 準備をする時間がない | 4 自分が学習・研修する時間がない |
| 5 上司や同僚の理解がない | 6 情報が少ない |
| 7 学ぶ側に興味がない | 8 予算措置がない |
| 9 十分な施設・設備がない | 10 各分野に詳しい教員が少ない |
| 11 学校図書館に関連図書が少ない | 12 講師招聘が難しい |
| 13 自分自身に関心がない | 14 その他（ <small>具体的に</small> ） |

「人類共通の課題」に授業で取り組んだことのない教員にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは、「授業を行う時間がない」39.3%となっており、カリキュラム上の問題があがっています。次いで「情報が少ない」37.1%、「教材が足りない」34.8%と、教材・情報不足が原因となっています。

学校区分別にみると、高等学校で特に「授業を行う時間がない」が57.1%と割合が高くなっています。



17授業で「人類共通の課題」に取り組まなかった理由T

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	教材が足りない	授業を行う時間がない	準備をする時間がない	自分が学習・研修する時間がない	上司や同僚の理解がない	情報が少ない	学ぶ側に興味がない
合計	89 100.0	31 34.8	35 39.3	20 22.5	26 29.2	1 1.1	33 37.1	9 10.1
小学校	44 100.0	18 40.9	15 34.1	13 29.5	15 34.1	0 0.0	20 45.5	6 13.6
中学校	17 100.0	9 52.9	6 35.3	2 11.8	3 17.6	1 5.9	7 41.2	0 0.0
高等学校	21 100.0	4 19.0	12 57.1	5 23.8	6 28.6	0 0.0	4 19.0	1 4.8
盲・聾・養護学校	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0

上段： 回答数 下段： 割合%	予算措置がない	十分な施設・設備がない	各分野に詳しい教員が少ない	学校図書館に関連図書が少ない	講師招聘が難しい	自分自身に関心がない	その他	無回答
合計	8 9.0	8 9.0	16 18.0	8 9.0	7 7.9	11 12.4	12 13.5	666 88.2
小学校	5 11.4	6 13.6	11 25.0	6 13.6	5 11.4	6 13.6	5 11.4	414 90.4
中学校	1 5.9	1 5.9	1 5.9	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9	166 90.7
高等学校	1 4.8	1 4.8	3 14.3	0 0.0	1 4.8	3 14.3	5 23.8	65 75.6
盲・聾・養護学校	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	15 78.9

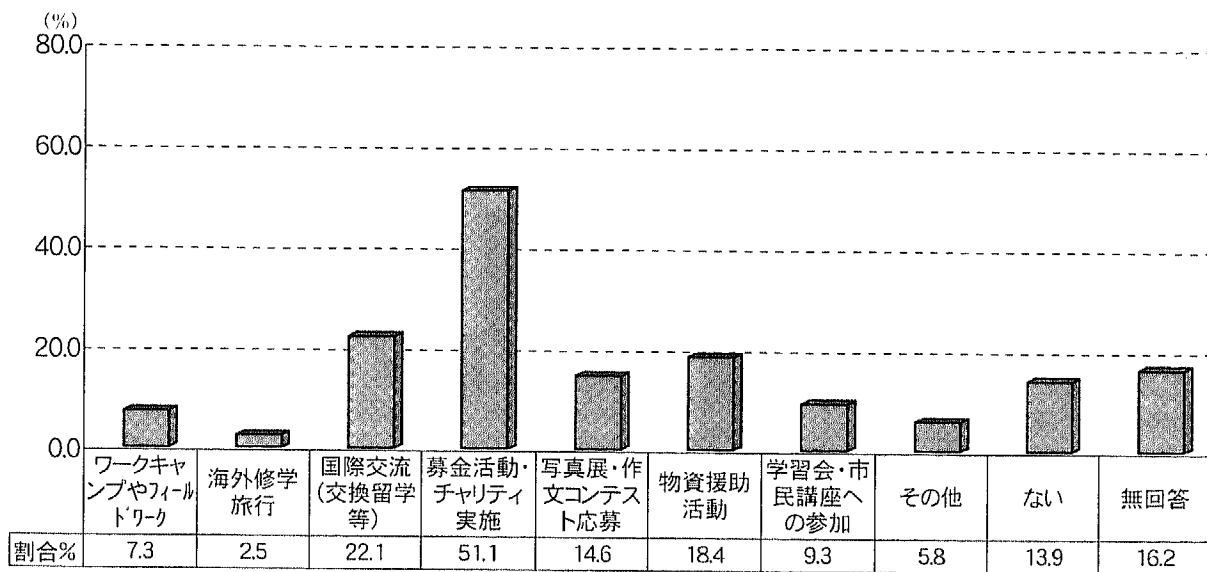
● 授業以外での「人類共通の課題」に関する過去3年間の取組

問18. 貴校では、問13の1～23の「人類共通の課題」について、過去3年間をふりかえり、「授業以外」でどのような取り組みを行いましたか？ は該当するものすべて 学校全体

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1 ワークキャンプやフィールドワーク | 2 海外修学旅行 |
| 3 国際交流（交換留学等） | 4 募金活動・チャリティイベントの実施 |
| 5 写真展・作文コンテストなどへの応募 | 6 物資援助活動 |
| 7 学習会・市民講座への参加 | 8 その他（ <small>具体的に</small> ） |
| 9 ない | |

授業以外における「人類共通の課題」への学校での取組としては、「募金活動・チャリティイベントの実施」が51.1%と最も高く、次いで、「国際交流（交換留学等）」22.1%、「物資援助活動」18.4%となっています。

学校区別では、小学校、中学校、高等学校となるにつれて、「国際交流（交換留学等）」、「海外修学旅行」の割合が高くなる傾向にあります。



18授業以外での「人類共通の課題」に関する過去3年間の取組S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	ワーク キャンプ フィールド ワーク	海外修学 旅行	国際交流 (交換留 学等)	募金活動 チャリ ティイ ベント 実施	写真展・ 作文コン テストな どへ応募	物資援助 活動	学習会・ 市民講座 への参加	その他	ない	無回答
合計	755 100.0	55 7.3	19 2.5	167 22.1	386 51.1	110 14.6	139 18.4	70 9.3	44 5.8	105 13.9	122 16.2
小学校	458 100.0	35 7.6	2 0.4	67 14.6	234 51.1	63 13.8	68 14.8	48 10.5	19 4.1	74 16.2	72 15.7
中学校	183 100.0	15 8.2	6 3.3	55 30.1	106 57.9	36 19.7	52 28.4	17 9.3	16 8.7	11 6.0	29 15.8
高等学校	86 100.0	4 4.7	10 11.6	42 48.8	39 45.3	10 11.6	15 17.4	3 3.5	7 8.1	12 14.0	11 12.8
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0	3 15.8	0 0.0	0 0.0	2 10.5	2 10.5	8 42.1	6 31.6

(5) 外部サポートの利用実態・ニーズについて

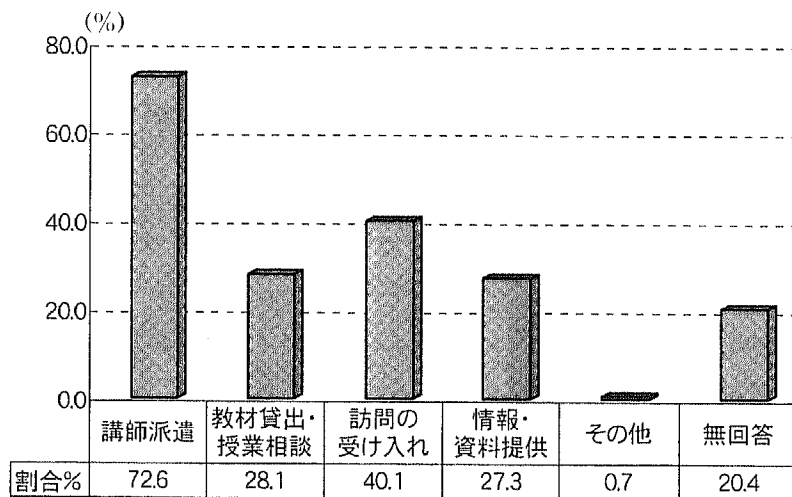
● 外部サポートの過去3年間の利用実績

問19-A. 貴校では、問13の「人類共通の課題」に関する授業や取組で、過去3年間でどのような外部サポートを受けたことがありますか?→ [1~5までの数字に、○は該当するもの全て] 学校全体

- 1 講師派遣 2 教材貸出・授業相談 (授業に直結) 3 児童・生徒の訪問の受け入れ
4 情報・資料提供 (授業の参考) 5 その他 ()

「人類共通の課題」に関する授業や取組で、外部サポートを受けた種類として最も多いのは、「講師派遣」で72.6%の学校に実績があります。次いで「児童・生徒の訪問の受け入れ」40.1%、「教材貸出・授業相談 (授業に直結)」28.1%の順となっています。

学校区分別では、高等学校で全般的に利用割合が少なくなっているほか、中学校で「児童・生徒の訪問の受け入れ」が53.6%と、小学校、高等学校、盲・聾・養護学校より比較的高い利用となっています。



19-A 「人類共通の課題」に関する授業や取組での過去3年間の外部サポート実績 S

上段: 回答数 下段: 割合%	全体	講師派遣	教材貸出・授業相談→授業に直結	児童・生徒の訪問の受け入れ	情報・資料提供→授業の参考	その他	無回答
合計	755 100.0	548 72.6	212 28.1	303 40.1	206 27.3	5 0.7	154 20.4
小学校	458 100.0	368 80.3	134 29.3	175 38.2	142 31.0	2 0.4	71 15.5
中学校	183 100.0	121 66.1	57 31.1	98 53.6	53 29.0	3 1.6	43 23.5
高等学校	86 100.0	41 47.7	16 18.6	26 30.2	8 9.3	0 0.0	32 37.2
盲・聾・養護学校	19 100.0	14 73.7	3 15.8	2 10.5	1 5.3	0 0.0	4 21.1

● サポート種ごとの利用先

問19-B ○をつけた1~5のサポート種ごとに、その利用先をお答えください。

→ [B欄のa~j (1~10) に○は該当するもの全て] 学校全体

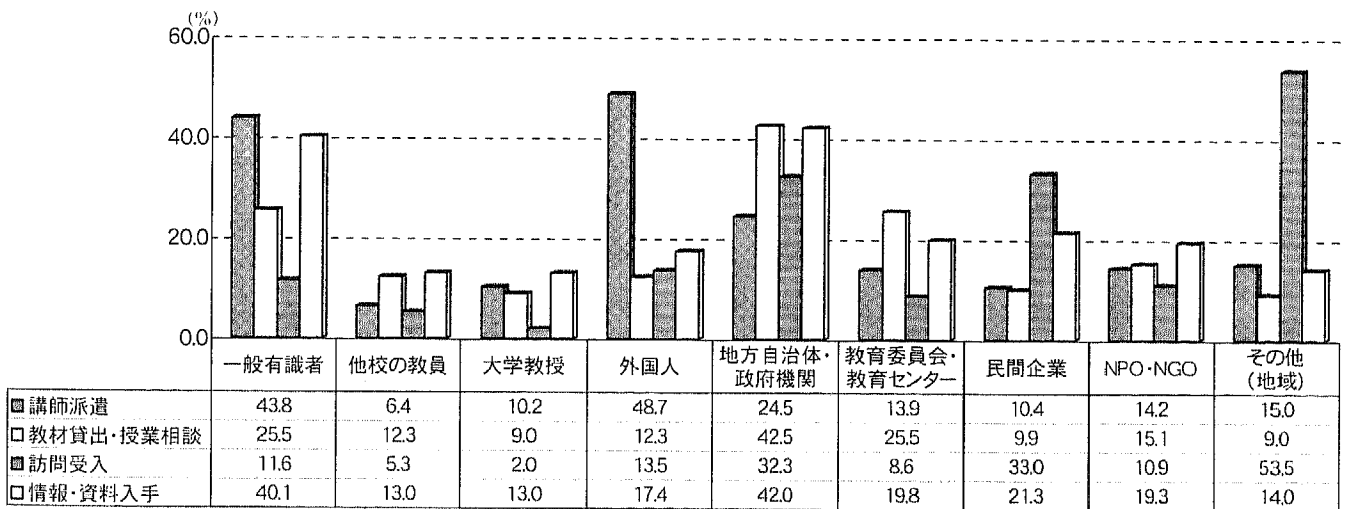
- 1 一般有識者 2 他校の教員 3 大学教授 4 外国人 5 地方自治体・政府機関
 6 教育委員会・教育センター 7 民間企業 8 NPO・NGO
 9 その他 (サポート種「児童・生徒の訪問受け入れ」のみ「地域」を設定)

「講師派遣」において利用が多いのは、「外国人」の48.7%、「一般有識者」43.8%となっています。

「教材貸出・授業相談」において利用が多いのは、「地方自治体・政府機関」42.5%、「一般有識者」25.5%、「教育委員会・教育センター」25.5%となっています。

「児童・生徒の訪問の受け入れ」において利用が多いのは、「地域」41.6%、「民間企業」33.0%、「地方自治体・政府機関」32.3%となっています。

「情報・資料提供」において利用が多いのは、「地方自治体・政府機関」42.0%、「一般有識者」40.1%、「民間企業」21.3%となっています。



19B1 「講師派遣」の利用先 S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	一般有識者	他校の教員	大学教授	外国人	地方自治体・政府機関	教育委員会・教育センター	民間企業	NPO・NGO	その他	無回答
合計	755 100.0	240 43.8	35 6.4	56 10.2	267 48.7	134 24.5	76 13.9	57 10.4	78 14.2	82 15.0	5 0.9
小学校	458 100.0	163 44.3	17 4.6	30 8.2	190 51.6	86 23.4	62 16.8	25 6.8	38 10.3	60 16.3	3 0.8
中学校	183 100.0	58 47.9	12 9.9	14 11.6	57 47.1	30 24.8	12 9.9	24 19.8	31 25.6	13 10.7	1 0.8
高等学校	86 100.0	15 36.6	5 12.2	10 24.4	9 22.0	14 34.1	1 2.4	5 12.2	7 17.1	5 12.2	1 2.4
盲・聾・養護学校	19 100.0	2 14.3	1 7.1	1 7.1	8 57.1	3 21.4	1 7.1	1 7.1	1 7.1	3 21.4	0 0.0

(次ページに、「教材貸出・授業相談」、「訪問受入」、「情報・資料入手」の利用先の表が続く)

19B2「教材貸出・授業相談」の利用先S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	一般有識者	他校の教員	大学教授	外国人	地方自治体・政府機関	教育委員会・教育センター	民間企業	NPO・NGO	その他	無回答
合計	755 100.0	54 25.5	26 12.3	19 9.0	26 12.3	90 42.5	54 25.5	21 9.9	32 15.1	19 9.0	0 0.0
小学校	458 100.0	40 29.9	16 11.9	12 9.0	18 13.4	59 44.0	36 26.9	15 11.2	11 8.2	17 12.7	0 0.0
中学校	183 100.0	12 21.1	9 15.8	2 3.5	6 10.5	24 42.1	14 24.6	4 7.0	14 24.6	2 3.5	0 0.0
高等学校	86 100.0	2 12.5	1 6.3	4 25.0	2 12.5	6 37.5	2 12.5	0 0.0	5 31.3	0 0.0	0 0.0
盲・聾・養護学校	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0

19B3「児童・生徒の訪問受入の利用先」S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	一般有識者	他校の教員	大学教授	外国人	地方自治体・政府機関	教育委員会・教育センター	民間企業	NPO・NGO	地域	その他	無回答
合計	755 100.0	35 11.6	16 5.3	6 2.0	41 13.5	98 32.3	26 8.6	100 33.0	33 10.9	126 41.6	36 11.9	3 1.0
小学校	458 100.0	25 14.3	10 5.7	1 0.6	23 13.1	56 32.0	13 7.4	49 28.0	6 3.4	71 40.6	24 13.7	1 0.6
中学校	183 100.0	9 9.2	3 3.1	2 2.0	8 8.2	38 38.8	11 11.2	48 49.0	21 21.4	49 50.0	9 9.2	0 0.0
高等学校	86 100.0	1 3.8	3 11.5	3 11.5	10 38.5	3 11.5	2 7.7	1 3.8	6 23.1	3 11.5	2 7.7	1 3.8
盲・聾・養護学校	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0

19B4「情報・資料提供」の利用先S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	一般有識者	他校の教員	大学教授	外国人	地方自治体・政府機関	教育委員会・教育センター	民間企業	NPO・NGO	その他	無回答
合計	755 100.0	83 40.1	27 13.0	27 13.0	36 17.4	87 42.0	41 19.8	44 21.3	40 19.3	29 14.0	3 1.4
小学校	458 100.0	64 45.1	19 13.4	17 12.0	27 19.0	62 43.7	29 20.4	27 19.0	14 9.9	24 16.9	2 1.4
中学校	183 100.0	16 29.6	7 13.0	4 7.4	8 14.8	21 38.9	9 16.7	16 29.6	23 42.6	5 9.3	1 1.9
高等学校	86 100.0	2 25.0	1 12.5	5 62.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0
盲・聾・養護学校	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

● サポート種ごとの具体的な利用先名 → 「3 自由記入意見」参照

問19-C ○をつけた1～5のサポート種ごとに、その利用先の上位4つまでの具体名をお答えください。

→ [C欄は自由記入(単発・継続)に○を1つ] 学校全体

「人類共通の課題」に取り組んだ際に、実際に利用したりソース先を聞きました。あわせて単発的な利用か、継続的な利用かも聞きました。

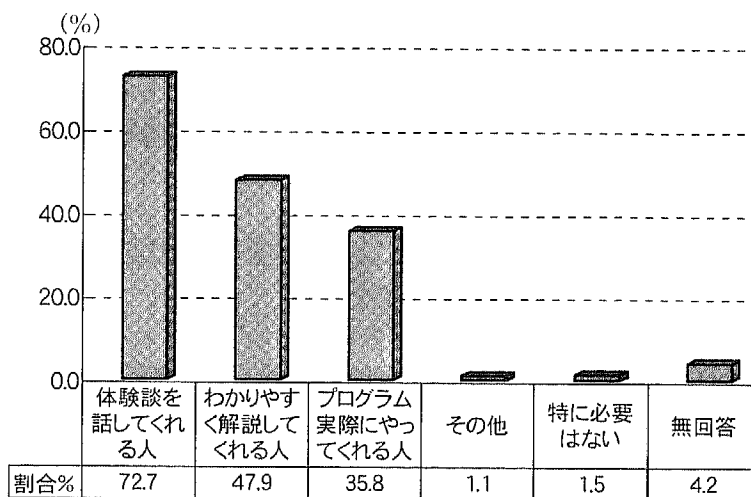
詳しくは、個別の自由記入文を、後述の「3 自由記入意見」の項に掲載しています。

● 望まれる講師像

問20. あなたは、具体的にどんな講師を望めますか？【〇は2つまで】 担当教員

- 1 各テーマの活動経験について、体験談を話してくれる人
- 2 各テーマを研究していて、わかりやすく解説してくれる人
- 3 同テーマの授業のプログラムを作り、実際にやってくれる人（ファシリテーター）
- 4 その他（具体的に）
- 5 特に必要はない

「講師派遣」で望まれる具体的な講師像としては、「各テーマの活動経験について、体験談を話してくれる人」が72.7%となっており、課題の掘り下げや授業の進行といったサポートよりも、生の情報の提供が比較的望まれているといえます。



20望まれる講師像T

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	体験談を話してくれる人	わかりやすく解説してくれる人	プログラム実際にやってくれる人	その他	特に必要はない	無回答
合計	755 100.0	549 72.7	362 47.9	270 35.8	8 1.1	11 1.5	32 4.2
小学校	458 100.0	333 72.7	247 53.9	176 38.4	4 0.9	1 0.2	13 2.8
中学校	183 100.0	141 77.0	75 41.0	70 38.3	1 0.5	5 2.7	5 2.7
高等学校	86 100.0	58 67.4	32 37.2	15 17.4	2 2.3	4 4.7	10 11.6
盲・聾・養護学校	19 100.0	11 57.9	6 31.6	7 36.8	1 5.3	1 5.3	1 5.3

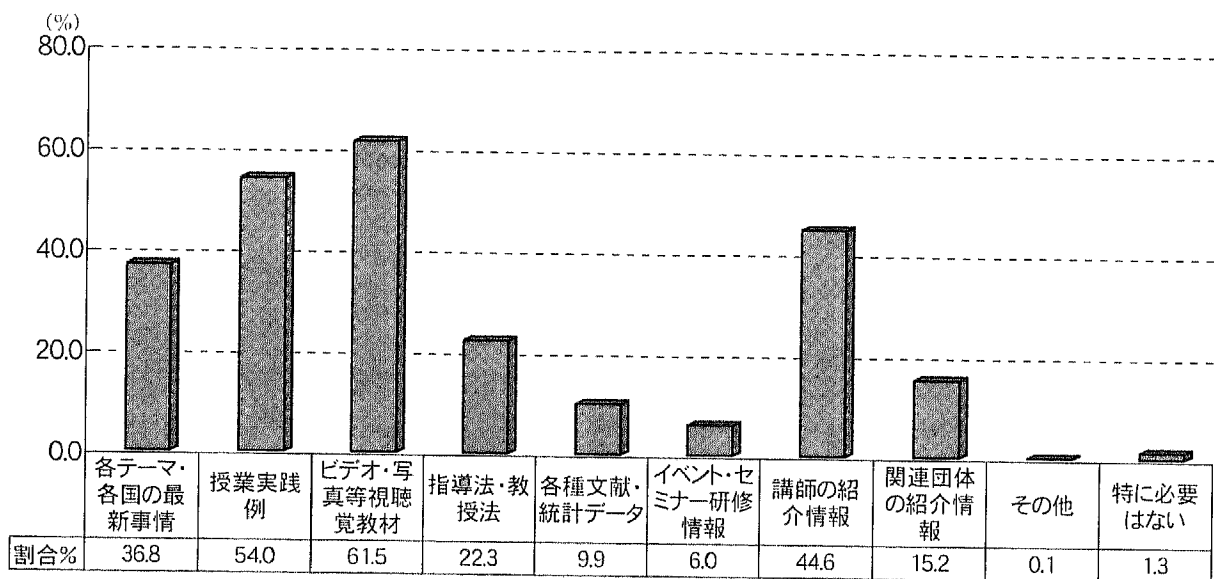
● 具体的にあるとよい情報

問21. あなたは、具体的にどんな情報があるとよいと思われますか？ [〇は3つまで] 担当教員

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 各テーマ・各国の最新事情 | 2 授業実践例 |
| 3 視聴覚教材 (ビデオ、写真、パネル等) | 4 指導法・教授法 |
| 5 各種文献・統計データ | 6 イベント・セミナー研修情報 |
| 7 講師の紹介情報 | 8 関連団体の紹介情報 |
| 9 その他 (<small>具体的に</small>) | 10 特に必要はない |

先の設問で、「人類共通の課題」を授業で取り組むうえでの課題として、「教材や情報がない」というカテゴリーが「時間がない」というカテゴリーの次に挙がっていましたが、具体的にあるとよい情報としては、「視聴覚教材 (ビデオ、写真、パネル等)」61.5%が1位となっており、授業の教材を一番求めているといえます。次いで「授業実践例」54.0%、「講師の紹介情報」44.6%となっています。

学校区分別にみると、高等学校、中学校、小学校の順に回答率が高く必要な情報に対する具体的なイメージを持っているようです。但し、「各種文献・統計データ」は逆に高等学校の方が比較的求められています。



21具体的にあるとよい情報T

上段：回答数 下段：割合%	全体	各テーマ・各国の最新事情	授業実践例	視聴覚教材 (ビデオ・写真等)	指導法・教授法	各種文献・統計データ	イベント・セミナー研修情報	講師の紹介情報	関連団体の紹介情報	その他	特に必要はない	無回答
合計	755 100.0	278 36.8	408 54.0	464 61.5	168 22.3	75 9.9	45 6.0	337 44.6	115 15.2	1 0.1	10 1.3	33 4.4
小学校	458 100.0	180 39.3	265 57.9	295 64.4	108 23.6	42 9.2	19 4.1	218 47.6	67 14.6	0 0.0	1 0.2	14 3.1
中学校	183 100.0	63 34.4	98 53.6	107 58.5	42 23.0	21 11.5	18 9.8	76 41.5	36 19.7	0 0.0	3 1.6	5 2.7
高等学校	86 100.0	29 33.7	35 40.7	45 52.3	14 16.3	10 11.6	5 5.8	28 32.6	11 12.8	1 1.2	5 5.8	9 10.5
盲・聾・養護学校	19 100.0	5 26.3	8 42.1	12 63.2	3 15.8	2 10.5	3 15.8	12 63.2	1 5.3	0 0.0	1 5.3	1 5.3

● サポートする側に希望すること、留意してほしいこと → 「3 自由記入意見」参照

問22. サポートする側へあなたが具体的に希望すること、留意してほしいことは？ [自由記入] 担当教員

「人類共通の課題」に取り組むうえで、サポートする側に具体的に希望することやこれまでの経験から留意してほしいことを聞きました。

詳しくは、個別の自由記入文を、後述の「3 自由記入意見」の項に掲載しています。

(6) 研修・ネットワークへの参加実態・ニーズについて

● 「人類共通の課題を扱う教育」に関する研修の有無と受講実績

問23. 貴校で「人類共通の課題を扱う教育」に関する学校の内部研修はありますか？ [〇は1つ] 学校全体

- 1 ある 2 ない 3 わからない

問24. あなたは、問23の学校の内部研修を受けたことはありますか？ [〇は1つ] 担当教員

- 1 ある 2 ない

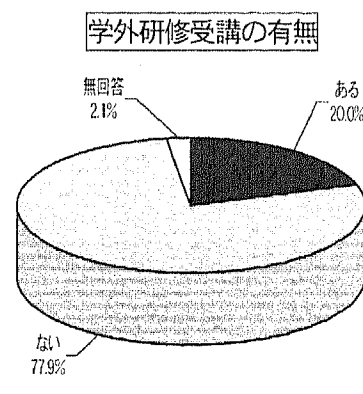
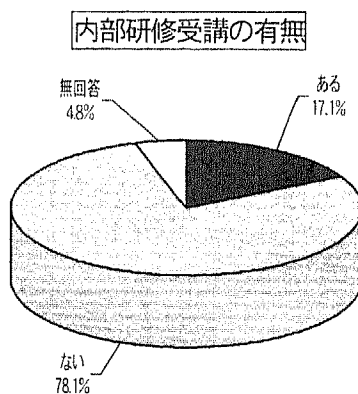
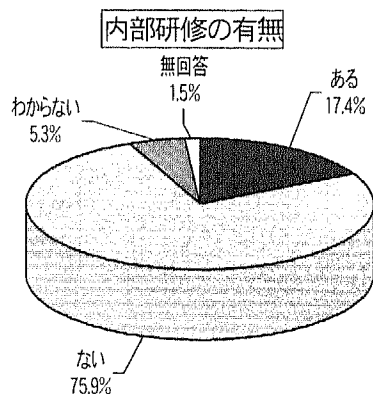
問25. あなたは、「人類共通の課題を扱う教育」に関する学外研修を受けたことはありますか？ [〇は1つ]

- 1 ある 2 ない 担当教員

「人類共通の課題を扱う教育」に関する学校の内部研修としては、約17%の学校であるとしています。その内部研修を担当教員が受けたことがあるかの設問については、同じく約17%となっており、内部研修があればほぼその研修を受けているようです。

次いで、学外研修受講の有無については、20%の担当教員が受けたことがあるとしており、各種研修の受講実態としては学内外にかかわらず約2割という結果となりました。

学校区分別にみると、小学校教員の方が中学校、高等学校教員よりも研修を受けている割合が高くなっています。



23当該教育に関する学校内部研修の有無S

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	ある	ない	わからな い
合計	755 100.0	131 17.4	573 75.8	40 5.3
小学校	458 100.0	100 21.8	327 71.4	27 5.9
中学校	183 100.0	17 9.3	155 84.7	9 4.9
高等学校	86 100.0	8 9.3	73 84.9	3 3.5
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	4 21.1	14 73.6	1 5.3

24同 内部研修の受講の有無T

上段： 回答数 下段： 割合%	ある	ない
合計	129 17.1	590 78.1
小学校	100 21.8	346 75.6
中学校	15 8.2	157 85.8
高等学校	8 9.3	68 79.1
盲・聾・ 養護学校	4 21.1	15 78.9

25同 学外研修受講の有無T

上段： 回答数 下段： 割合%	ある	ない
合計	151 20.0	588 77.9
小学校	104 22.7	350 76.4
中学校	30 16.4	148 80.9
高等学校	13 15.1	70 81.4
盲・聾・ 養護学校	2 10.5	16 84.2

● 印象の強い研修の名称と主催団体 → 「3 自由記入意見」参照

[限定設問]

問26. あなたが受けた研修で印象の強い研修の名称と主催団体は？ [3つまで記入] 担当教員

研修を受けた中で、印象の強かった研修の名称と主催団体を聞きました。

詳しくは、個別の自由記入文を、後述の「3 自由記入意見」の項に掲載しています。

● 研修を企画する側へ希望すること、留意してほしいこと → 「3 自由記入意見」参照

問27. 研修を企画する側へあなたが具体的に希望すること、留意してほしいことは？ [自由記入] 担当教員

「人類共通の課題を扱う教育」に関する研修を受けるうえで、研修を企画する側に具体的に希望することやこれまでの経験から留意してほしいことを聞きました。

詳しくは、個別の自由記入文を、後述の「3 自由記入意見」の項に掲載しています。

● 「人類共通の課題を扱う教育」に関するネットワークへの参加意向

問28. あなたは「人類共通の課題を扱う教育」に関するネットワークに参加したいですか。〔○は1つ〕

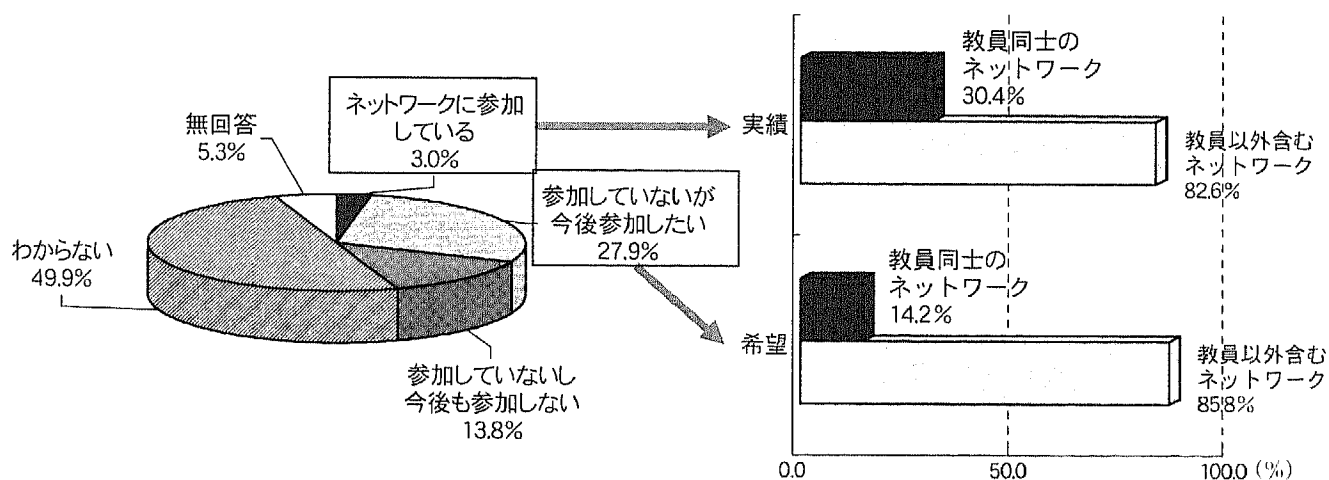
また、どんな対象のネットワークに参加したいですか？〔()内のア～イに、○は全て〕 **担当教員**

- 1 ネットワークに参加している → (ア 教員同士 イ 教員以外を含むもの)
- 2 参加していないが今後参加したい → (ア 教員同士 イ 教員以外を含むもの)
- 3 参加していないし今後も参加しない
- 4 わからない

「人類共通の課題を扱う教育」に関するネットワークへの参加状況は、3.0%の担当教員が「ネットワークに参加している」としています。また、「参加していないが今後参加したい」の27.9%とあわせると約3割の担当教員がネットワークへの関心があるといえます。

ネットワークの種類としては、実績と希望ともに、教員同士のネットワークよりも教員以外を含むネットワークの方に指向があるようです。

学校区分別にみると、高等学校の担当教員で「ネットワークに参加している」と「参加していないが今後参加したい」の合計割合が20.7%と小学校、中学校、盲・聾・養護学校の担当教員よりもややネットワークへの関心が低い傾向にあります。



28 「人類共通の課題を扱う教育」に関するネットワークへの参加意向

上段： 回答数 下段： 割合%	全体	ネット ワークに 参加して いる	参加して いないが 今後参加 したい	参加して いないし 今後も参 加しない	わから ない	無回答
合計	755 100.0	23 3.0	211 27.9	104 13.8	377 50.0	40 5.3
小学校	458 100.0	14 3.1	134 29.3	64 14.0	228 49.7	18 3.9
中学校	183 100.0	6 3.3	57 31.1	26 14.2	86 47.0	8 4.4
高等学校	86 100.0	3 3.5	15 17.4	14 16.3	50 58.1	4 4.7
盲・聾・ 養護学校	19 100.0	0 0.0	5 26.3	0 0.0	12 63.2	2 10.5

(7) 学校・あなたの属性について

● 回答学校・回答教員の属性

問29. 学校・あなたの属性をお答えください。

(1) 学校区分【〇は1つ】 1 小学校 2 中学校 3 高等学校 4 盲・聾・養護学校

(2) 所在市区町村【自由記入】 自由記入されたものを次のように分類化

1 尾張地区(名古屋市を除く) 2 三河地区 3 名古屋市

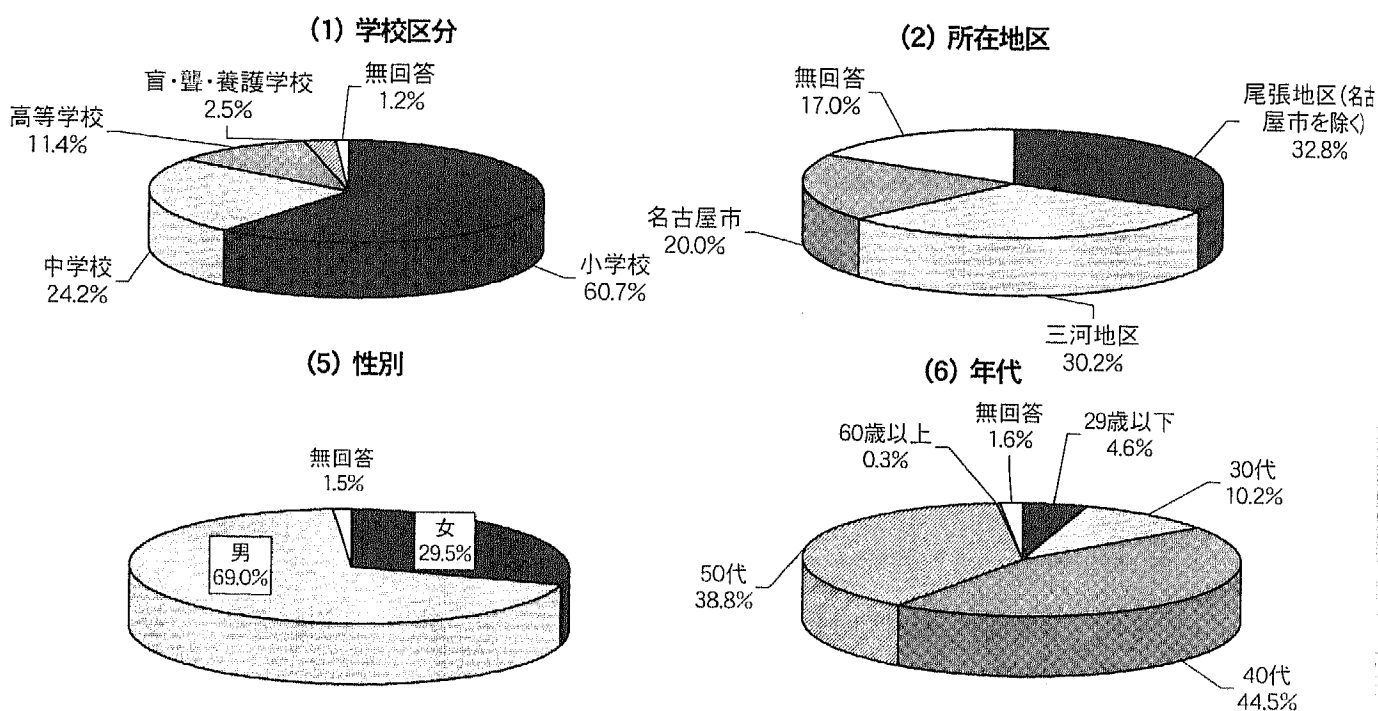
(5) 性別【〇は1つ】 1 女 2 男

(6) 年代【〇は1つ】 1 29歳以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳以上

(以上の属性のほか、(3)児童・生徒数、(4)うち外国籍、(7)担当教科、(8)特定教室等の有無を設問)

回答学校、回答教員の属性は次のとおりとなっています。

なお、学校区分別の回収率は、高等学校、中学校、小学校、盲・聾・養護学校の順に高くなっています。



29-5担当教員の性別T

上段: 回答数 下段: 割合%	全体	女	男	無回答
合計	755	223	521	11
	100.0	29.5	69.0	1.5
小学校	458	157	300	1
	100.0	34.3	65.5	0.2
中学校	183	46	136	1
	100.0	25.1	74.4	0.5
高等学校	86	16	69	1
	100.0	18.6	80.2	1.2
盲・聾・ 養護学校	19	4	15	0
	100.0	21.1	78.9	0.0

回収率

	発送数 (通)	回収数 (通)	回収率 (%)
合計	1,675	755	45.1
小学校	987	458	46.4
中学校	433	183	42.3
高等学校	226	86	38.1
盲・聾・ 養護学校	29	19	65.5